

永遠の真理

ETERNAL TRUTH



2021 年 3月

「天国で」「地上における神の大使（Ⅱ）」「聖霊の時代」「クリーム入りニラのお焼き」

永遠の真理

いま永遠の真理の土台の上に堅く立ちなさい。(3T p.45)

目次

今月の聖書勉強

「地上における神の大使(Ⅱ)」

4

聖書の教え

朝のマナ

天国で

8

In Heavenly Places

現代の真理

「聖霊の時代」

40

わたしたちが信仰の一致に到達するまで

力を得るための食事

「クリーム入りニラのお焼き」

46

レシピ

お話コーナー

「昇天(Ⅱ)」

48

イエスの物語

【正丸教会】

〒368-0071 埼玉県秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1
電話：0494-22-0465

【沖縄集会所】

〒905-2261 沖縄県名護市天仁屋 600-21
電話：0980-55-8136

発行日 2021年2月7日

編集&発行 SDA改革運動日本ミッション

〒368-0071 秩父郡横瀬町芦ヶ久保 1607-1

Illustrations: Getty Image on Front page; Sermon View
on page 48

アクセス www.4angels.jp

メール sdarm.shomaru@gmail.com

Printed in Japan

これをなす者には聖霊が無制限に

ヨハネの弟子たちは高まっていくイエスの人気を妬みの目で見た。…ヨハネの弟子たちはヨハネのところへ苦情を訴えてきて、「先生、ごらん下さい。ヨルダンの向こうであなたと一緒にいたことがあり、そして、あなたがあかしをしておられたあのかたが、バプテスマを授けており、皆の者が、そのかたのところへ出かけています」と言った(ヨハネ 3:26)。こうした言葉によって、サタンはヨハネを試みた。…もし彼が自分自身に同情し、…悲しみか失望を表明したら、彼は…ねたみを助長し、福音の進歩をひどく妨げたであろう。

ヨハネは人間に共通の欠点や弱点を生まれつき持っていたが、神の愛に触れることによって生まれ変わっていた。彼は利己心と野心に汚されていない雰囲気の中に住み、ねたみという毒氣にまったく超越していた。彼は弟子たちの不満に同情を示さずに、自分がメシヤに対してどんな関係にあるかをはっきりわきまえていることと、自分がそのために道を備えてきたお方を歓迎していることを明らかにした。…ヨハネは、人々をイエスに向けるために召されていたので、救い主の働きの成功を目に見ることは彼の喜びであった。彼は、「この喜びはわたしに満ち足りている。彼は必ず栄え、わたしは衰える」と言った(ヨハネ 3:29, 30)。

ヨハネは信仰をもって贖い主を見たとき、自己否認の高さにまで高められた。彼は人々を自分に引きつけようとしなくて、むしろ彼らの思いをだんだん高めて、ついには彼らが神の小羊イエスに目を向けるようにした。…

神の使命者としての召しに忠実な人たちは自分に誉れを求めない。自分を愛する思いはキリストへの愛によってなくなる。とうとい福音のみわざを妨げるような対抗意識は何もない。…

おのれをむなしくした預言者ヨハネの魂は、神からの光に満たされていた。救い主のみ栄えのために証したとき、彼の言葉は、キリストご自身がニコデモとの会見の時に語られた言葉とほとんどそっくりであった。ヨハネは、「上から来る者は、すべての者の上にある。…天から来る者は、すべての者の上にある。…神がおつかわしになったかたは、神の言葉を語る。神の聖霊を限りなく賜うからである」と言った(ヨハネ 3:31,34)。キリストは「わたしは、…わたし自身の考えでするのではなく、わたしをつかわされたかたの、み旨を求めているからである」と言うことがおできになった(ヨハネ 5:30)。…天父は「聖霊を限りなく賜うからである」(ヨハネ 3:34)。

キリストに従う者たちもこれと同じである。われわれは、よろこんでおのれをむなしくするときのみ天の光を受けることができる。われわれはすべての思いをとりこにしてキリストに従わせることに同意しない限り、神のご品性を認識することも、信仰によってキリストを受け入れることもできない。これをなす者にはすべて、聖霊が無制限に与えられる。(各時代の希望上巻 213, 214)

第21課 地上における神の大使(Ⅱ)

神は、いくつの教会を持っておられるだろうか？

キリストは、ご自分の教会、すなわち一つの体の頭であります。このお方は多くの体の頭なのではなく、一つの体の頭であられるのです。「からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。」(エペソ 4:4-6)。

「今わたしは、あなたがたのための苦難を喜んで受けており、キリストのからだなる教会のために、キリストの苦しみのなお足りないところを、わたしの肉体をもって補っている。」(コロサイ 1:24)。

聖書がバビロンと呼ぶ巨大な連合体があります。その連合体は、複数の団体によって構成されています。彼らは、クリスチャンあるいはキリストの従者と自称します。「その日、七人の女がひとりの男にすがって、『わたしたちは自分のパンをたべ、自分の着物を着ます。ただ、あなたの名によって呼ばれることを許して、わたしたちの恥を取り除いてください』と言う。」(イザヤ 4:1)。

聖書においては、女は教会を象徴しています。パンは神のみ言葉の象徴です。衣はキリストの義を象徴しています。最後の時代において、公言する諸教会は、神のみ言葉について自分自身の解釈を求め、自分自身の義をまとうことを望みますが、なお神の教会を名乗ります。

神のみ言葉の律法や教えに反する人間の法律や規則を教え実践しているなら、神の教会であると主張しても無意味です。

「『この民は、口さきではわたしを敬うが、その心はわたしから遠く離れている。人間のいましめを教として教え、無意味にわたしを拝んでいる。』」(マタイ 15:8,9)。

わたしたちには、赤い(背教の)女とその娘の預言が与えられています。「御使は、わたしを御霊に感じたまま、荒野へ連れて行った。わたしは、そこでひとりの女が赤い獣に乗っているのを見た。その獣は神を汚すかずかずの名でおおわれ、また、それに七つの頭と十の角とがあった。この女は紫と赤の衣をまとい、金と宝石と真珠とで身を飾り、憎むべきものと自分の姦淫の汚れとで満ちている

金の杯を手に持ち、その額には、一つの名がしるされていた。それは奥義であって、『大いなるバビロン、淫婦どもと地の憎むべきものらとの母』というのであった（黙示録 17:3-5）。

これらの背教の教会はみな、母も娘も、統一化を目指し、自分たちの仲間に入るようすべてを招きます。しかし、神の真の教会は、彼女たちとは結合しません。その教会は、神の戒めに違反する堕落した教会からは分離します。なぜなら、次の神の召しに注意を払ってきたからです。「だから、彼らの間から出て行き、彼らと分離せよ、と主は言われる。そして、汚れたものに触れてはならない。触れなければ、わたしはあなたがたを受け入れよう。そしてわたしは、あなたがたの父となり、あなたがたは、わたしのむすこ、むすめとなるであろう。全能の主が、こう言われる。」（コリント第二 6:17,18）。

どのようにして神の教会を見分けるべきか？

神の教会は、真理の柱です。その教会は真理を宣べ伝え実践します。「万一わたしが遅れる場合には、神の家でいかに生活すべきかを、あなたに知ってもらいたいからである。神の家というのは、生ける神の教会のことであって、それは真理の柱、真理の基礎なのである。」（テモテ第一 3:15）。

真理とは何か？この質問は度々なされますが、正確に答えられることはまれです。わたしたちがイエスに問うならば、次のようにお答えになることでしょう。「わたしは道であり、真理であり、命である。だれでもわたしによらないでは、父のみもとに行くことはできない」（ヨハネ 14:6）。

詩篇にある別の言葉では「あなたの義はとこしえに正しく、あなたのおきてはまことです」（詩篇 119:142）。

「真理によって彼らを聖別して下さい。あなたの御言は真理であります」（ヨハネ 17:17）。

教会は真理の柱です。つまり、教会は真理を守ることです。神の教会はイエスを唯一の救い主として受け入れ、神の律法を守り、神のみ言葉を尊重し、従います。これらの証拠により、わたしたちは容易に真の教会を見つけることができます。

「ただ教とあかしとに求めなさい。もし彼らがこの言葉によって語らないならば、それは彼らのうちに光がないからである」（イザヤ 8:20 欽定訳）。

「ここに、神の戒めを守り、イエスの信仰を持ちつづける聖徒の忍耐がある」（黙示録 14:12 欽定訳）。

神へと改心し約束したあと、わたしたちは神の教会に加わる必要に気づきます。神によって与えられた条件、あるいは標準を満たす教会を知るために、熱心な祈りと共に神のみ言葉のまじめな吟味が要求されます。

どの教会が天の律法を守り、それを迫害の下にあってさえゆるがない標準として守るようにと人々に教えているでしょうか。

「龍は、女に対して怒りを発し、女の残りの子ら、すなわち、神の戒めを守り、イエスのあかしを持っている者たちに対して、戦いをいどむために、出て行った。」(黙示録 12:17)。

「わたしは柔和にしてへりくだる民を、あなたのうちに残す。彼らは主の名を避け所とする。イスラエルの残りの者は不義を行わず、偽りを言わず、その口には欺きの舌を見ない。それゆえ、彼らは食を得て伏し、彼らをおびやかす者はいない。」(ゼパニヤ 3:12,13)。

「恐れるな、小さい群れよ。御国を下さることは、あなたがたの父のみこころなのである。」(ルカ 12:32)。

真の教会のメンバーとなることなく、救われることはできるか？

今日の社会において、独立がはびこっています。多くの人々は、聖書自身による聖書の解釈を受け入れず、独自に聖書を解釈します。その結果、彼らはどの教会にも賛同するのは難しいと感じ、支持しません。他の人々は、すべての教会にどこか良いところがあると信じて支持します。

しかし、神は、反逆の世にご自身の教会を有しておられます。教会は人類救済のために神がお定めになった機関です。教会は、あらゆる満ちみちた神の真理の管理者です。神の教会は、聖なる生活のための宮廷であり、様々な賜物に満ちており、神の王国を築き上げるために共に奮闘しています。

聖書はまた、イエスがご自分の教会を迎えるために、まもなく再臨なさることをわたしたちに告げています。

「わたしは神の熱情をもって、あなたがたを熱愛している。あなたがたを、きよいおとめとして、ただひとり男子キリストにささげるために、婚約させたのである。」(コリント第二 11:2)。

「キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。」(エペソ 5:26,27)。

教会員になるだけで、人が救われるわけではありません。しかし、キリストと結合することにより、わたしたちは自分の兄弟と結合するように導かれます。結合と組織は、真理の実です。記されたみ言葉は、神の民を共に一つの旗印の下へ引き寄せます。

「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしにな

ったことを、世が信じるようになるためであります」(ヨハネ 17:21)。

初期の教会を迫害していたとき、タルソのサウロは、自分の盲目を悟られしました。その後、主は彼に、キリストを学び信徒たちと結合するために教会へ行くよう指示なさいました。

人の経験の当初より、主は正直な探究者にご自分の教会へ行くよう指示なさいます。神の教会のメンバーになることが救いの基準ではありませんが、それは、神のみ言葉に対して人が確信したときに結ぶ実です。神の囲いにはいない失われた羊が大勢いますが、地上における最後の働きにおいて、彼らは真の教会に加わるようになります。キリストは次のようにあらかじめ語っておられます。「わたしにはまた、この囲いにはいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも、わたしの声に聞き従うであろう。そして、ついに一つの群れ、ひとりの羊飼となるであろう。」(ヨハネ 10:16)。

キリストは、すべての失われた羊をご自分の囲いの中に入れたいと望んでおられます。神の教会は、過去において迫害されましたが、危険な時が再び彼女を待ち受けています。戦う教会は、最終的に勝利する教会となります。キリストと共にいるすべての人は、一つの体組織のうちに共になり、互いに結び合わされて、勝利者となるのです。

神の教会は今、天の教会に加わり、神の大家族になる準備をしています。多くの諸教会がある程度様々な誤謬(ごびゅう)を教えて実践し、最終的には神の律法の違反者たちに加わるようになりますが、残りの民、すなわち神の教会は、真理への従順のうちに自分たちの品性を完成させつつあります。パウロは次のように記しました。「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。」(テトス 2:13,14)。

どの時代においても、神の教会は人気がなく、貧しく、教会員は少ないですが、その教会は自分たちを世から分離させる真理と信仰を所有しています。今日もなんら変わりはありません。天父があなたをご自分の子の一人して受け入れ、あなたにはつきり理解させて、キリストに結合した体へと導いてくださるよう祈ってください。そしてイエスをご自分の教会を地から贖うために再臨なさるとき、あなたが彼らと共にいますようにと奮闘し祈ってください。

天国で

In Heavenly Places



3月

神に求めよう

「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず
に惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられ
るであろう。」(ヤコブ 1:5)

まず密室で神と語らい、それから神の代弁者として他の人々と話をするという
のは、あらゆる信者の特権である。何かを分け与えることができるためには、わ
たしたちは日毎に光と祝福を受けなければならない。神と交わる男女、キリスト
が共にいてくださる男女、聖なる天使たちと協力するので聖なる感化力に囲まれ
ている男女が、今必要とされている。その働きは、キリストと共に引き寄せる力
を持つ人々、励ましと思いやりの言葉で神の愛を表現する力を持っている人々を
必要としている。

信者が神のみ前に哀願してひざまずく時、へりくだって、悔い改めた心で偽ら
ない唇からの嘆願をする時、その人は自分の思いがすべてなくなる。彼の心は、
キリストのような品性を培うために持たなければならない思いで満たされる。彼
は、「主よ、もしもわたしがあなた様の愛が日々刻々、流れ出る通路となるべきで
あるのなら、あなた様が約束してくださいました恵みと力とを、わたしは信仰によ
って請い求めます」と祈る。彼は、「あなたがたのうち、知恵に不足している者が
あれば……神に願い求めるがよい。そうすれば与えられるであろう」というみ約
束を堅くつかんで放さない。

主はこの信頼して依り頼むことをどれほど喜ばれることであろうか。この確固
とした熱心な嘆願を聞くことをどれほどうれしく思われることであろうか。……主
はこのへりくだった嘆願者に最も難しい義務を行うための力を与え、驚くほどに
気高くなる恵みをもって彼を聖別される。引き受けたことはすべて主に対してなさ
れ、これが最もやさしい召しを高尚にし、聖別するのである。あらゆる言葉や行
動に新しい気高さを与え、最もへりくだった働き人を……天の宮廷にいる最も高
い地位のみ使いたちとつながらせる。……

神の息子、娘たちには世界でなすべき大いなる働きがある。彼らは、神のみ言
葉を自分たちの勧告に最適のものとして受け入れ、他の人々に分け与えるために受
け入れなければならない。彼らは光を放散しなければならない。神に植え付けら
れた言葉を受けている者はみな、その言葉を他の者に与えることに忠実である。
彼らはキリストの言葉を語る。会話と態度で、日々真理の原則に改心しているとい
う証拠を示す。そのような信者は、世にも天使たちにも人々にも良い証であり、彼
らの内にあって神があがめられる。(ビュー・アンド・ヘラルド 1909年3月4日)

3月2日

神に受け入れられる人々

「わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である。」(イザヤ 66:2)

世的な卓越さと栄誉を求めて聖書を究明する人々は悲しむべき過ちを犯す。他の人々を優先しつつ、自己を否定する人は、御座に座っておられるキリストの最も近くに座る人々である。心を読まれるお方は、ご自分のへりくだった、自己犠牲的な弟子たちのもっている真の功績を見られる。彼らは自分の価値に気づかず、名誉を求めないけれども、彼らにはその価値があるので、キリストは彼らを栄誉ある立場に置かれる。……

神は外見や自慢には価値をおかれない。この世で他の人々にまざっているように思える多くの人々が、神は人をその思いやりと自己否定によって評価されることをいつか知るであろう。……良いわざをしながら巡り歩かれたお方の模範に従う人々、自分の同胞を常に高めようと努力しつつ、その人々を助け、祝福する人々は、神の御目に、自分自身を高める利己的な人々よりも限りなく気高い。

神は人々をその能力のゆえに受け入れるのではなく、ご自分の助けを強く願いつつ、そのみ顔を求めるがゆえに、その人々を受け入れられる。神は人が見ようには御覧にならない。外見で判断せず、心を探り、正しく判断される。「わたしが顧みる人はこれである。すなわち、へりくだって心悔い、わが言葉に恐れおののく者である」と宣言される。神は、ご自分に従う、へりくだった控えめな者を受け入れ、この者と交わりを持たれる。なぜならこのお方は彼らの内に最も尊い材質、嵐や暴風雨、熱や重圧という試みに耐える材質を認められるからである。

わたしたちが主なるお方のために働いている目的は、このお方のみ名が罪人の改心の中であがめられることでなければならない。賞賛を得るために労する人々は神に是認されない。……

自分の持っている大いなる賜物に頼らず、常に神を信頼して実直に働く働き人は救い主の喜びにあずかる。彼らの忍耐強い祈りは魂を十字架のところへ連れて行く。天のみ使いたちは彼らの自己犠牲の努力に応じる。……

これらの働き人は主が植えておられる木である。特別な意味で、彼らは使徒たちが帯びていた実と同じ実を帯びる。未来の生涯には豊かな報いが彼らを待っている。(ビュー・アソッド・ヘラルド 1907年7月4日)

祈りを通じての力強さ

「さあ、われらは拝み、ひれ伏し、われらの造り主、主のみ前にひざまずこう。」
(詩篇 95:6)

キリストは弟子たちに、祈祷のための特別な時が必要であるということを確認させられた。このお方の伝道におけるあらゆる行為の前に祈りがなされ、その行為が聖別された。……救い主が山の中や砂漠で過ごされた夜を徹しての祈りは、それに続く日々に関わなければならない試練に備えるために必要不可欠であった。このお方は魂と身体を元気づけ、活気づける必要があると感じられたが、それはご自分がサタンの誘惑に立ち向かうことができるためであり、またご自分の生命を生きるために努力している人々が同じ必要を感じることになるからであった。……

キリストはわたしたちの身代りであり保証人となり、誰一人も拒まないでご自身にかけて誓われた。このお方の服従から生じる完全な服従という尽きることのない蓄えがある。天におけるこのお方の功績、その自己否定と自己犠牲は、このお方の民の祈りと共に上っていく香として尊ばれる。罪人の真面目なへりくだった祈りが神のみ座に上っていく時、キリストはご自分の完全な服従の功績をそれに混ぜられる。わたしたちの祈りはこの香によって良い香りとなる。……

神の王国の神秘は理論によっては学ぶことができないことをすべての人に思い出させよう。真の信仰、真の祈りはどれほど強いことであろうか。パリサイ人の祈りは価値がなかったが、取税人の祈りは天の宮廷に聞こえた。全能のお方をしっかりとつかむために手を伸ばしている信頼した依り頼みを、その祈りが示したからである。取税人にとって自己は恥以外の何ものでもなかった。神を求める者はみなこのようであればならない。信仰と祈りは、貧窮の嘆願者が限らない愛のお方の首にかける二本の腕である。……

わたしたちは道すがら歩むとき、イエス・キリストと語り、キリストは「わたしはあなたの右側にいる」と言われる。わたしたちはキリストと日毎の交わりをしながら歩むことができる。わたしたちが自分の願いを吐露する時、人の耳には聞こえないかもしれないが、仕事上の活動は続いていても、その言葉は黙殺されてしまったり、消え去ってしまったりすることはない。何者も魂の切なる願いをかき消すことはできない。その願いは街の騒音の上に、機械のやかましい音の上にのぼって天の宮廷にまでとどく。わたしたちが話しているお方は神であるから、その祈りは聞かれる。だから求めなさい。「求めよ。そうすれば与えられるであろう。」
(ビュー・アンド・ヘアルド 1900 年 10 月 30 日)

3月4日

天の光の中に立つ

「『やみの中から光が照りいでよ』と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである。」（コリント第二 4:6）

天とわたしたちの魂の間の交わりが自由で開かれたものとなるように、み摂理が備えられている。神の御座からの光と栄光の流れが豊かに注がれるその場所に、有限な人間が自分の身をおくことができる。イエス・キリストの顔に輝く神の栄光の知識についての光がその人の上に輝くことができる。「あなたは世の光である」と言ってもらえる場所に、その人は立つことができる。天と地の間に交わりがなければ、世に光はない。ソドムやゴモラのように、すべての人は神の正しい裁きのもとに滅んでしまう。しかし世は暗闇の中に置き去りにはされていない。長く耐え忍んでくださる神のあわれみは、まだ人の子らに及んでおり、神の御座からでる光の流れが光の子らによって反映されるようにというのが神のご計画である。……

わたしたちの上に天の光を受けていることがわたしたちの特権である。エノクはこのようにして神と共に歩んだ。エノクにとって義の生涯を送ることは、現代のわたしたちがその生涯を送るよりもたやすいというわけではなかった。彼の生きていた時代の世界が現代よりも恵みと聖潔の内に成長するのに好都合というわけではなかった。

エノクが、強い欲望を通じて世に広まっていた墮落をまぬがれることができたのは、祈りと神との交わりによってであった。わたしたちは終末の危機の時代に生きているので、同じ源であるお方から力を受けなければならない。わたしたちは神と共に歩まなければならない。世からの分離がわたしたちに要求されている。なぜなら、わたしたちが忠実なエノクの模範に従わないかぎり、世の汚れに染まらないでいることはできないからである。……

キリストの宗教を公言する人々は、自分たちの上におかれている責任を理解し、これが個人的な働きであり、個人的にキリストについて説き勧めることであると感じるべきである。もしも一人一人がこのことに気づき、その仕事を取り上げるなら、わたしたちはみ旗のもとに立つ兵士のように力強くなる。天からの鳩がわたしたちの頭上にとどまるであろうに。神の栄光の光が献身したエノクに豊かに降り注がれていたように、わたしたちにも豊かに降り注がれるのだが。（ビュー・アズ・ハルド 1900年1月9日）

天への手紙

「だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか。」(ヘブル 4:16)

祈りは罪のための贖いではなく、罪をざんげすることでもない。わたしたちは有罪を宣告された犯罪者として神のもとに来る必要はない。なぜならキリストがわたしたちの犯罪に対する罰金を支払ってくださったからである。このお方はわたしたちのために贖いをしてくださった。このお方の血は罪から清める。わたしたちの祈りは地から上る手紙のようなものであり、天におられるみ父に直接届く手紙である。真面目な、へりくだった心から上っていく嘆願は確かにみ父のもとに届く。み父はご自分の養子の誠意を識別することができ、わたしたちの弱さをあわれんで、わたしたちの弱々しい気力を強くしてください。「求めよ。そうすれば与えられるであろう」とこのお方は言われた。

人類家族の多くの者は、自分が何を求めるべきであるかが分っていない。しかし主は親切で優しいお方なので、彼らに語るべき言葉を与えることによって、彼らの弱々しい気力を助けてくださる。清められた願いをもって来る者は、キリストを通してみ父のもとに近づく。キリストはわたしたちの仲保者である。救い主の功績という金の香炉に入れられた祈りはみ父に受け入れられる。神のみ言葉の中にあるすべての約束はわたしたちのためである。あなたの祈りの中に、エホバが誓われたみ言葉を示し、信仰によってこのお方のみ約束を主張しなさい。このお方のみ言葉は、もしもあなたが信仰をもって求めるなら、あなたはすべての霊的な祝福を受けると保証している。求め続けなさい。そうすれば、とりわけあなたが求めること、あるいは思うことを非常に豊かに受けるであろう。神を限りなく信頼するようあなた自身を教育し、このお方にあなたの思いわずらいをすべてあずけてしまいなさい。このお方を忍耐強く待ちなさい。そうすればこのお方がそれを去らせて下さる。

わたしたちは自分を正当化する気持ちをもって神のもとへ来るのではなく、へりくだって、自分の罪を悔い改めつつ来るべきである。このお方は、わたしたちを助けることができ、わたしたちが求め、思う以上に、わたしたちのために喜んでして下さる。神はわたしたちの必要を満たすためにありあまるほどのものを天に持っておられる。…神は聖なるお方であるから、わたしたちは「怒ったり疑ったりしないできよい手をあげて」祈らなければならない(テモテ第一 2:8 英語訳)。…

わたしたちは「まず神の国と神の義を」求めるべきである(マタイ 6:33)。神が、まごころをもって、まじめに真実ご自分を尋ね求める者に与えて下さる祝福を、わたしたちは受ける準備をしなければならない。キリストの恵みを受けたいのなら、わたしたち心を開き続けていなければならない。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1903 年 11 月 18 日)

3月6日

救い主とのうるわしい交わり

「すなわち、わたしたちが見たもの、聞いたものを、あなたがたにも告げ知らせる。それは、あなたがたも、わたしたちの交わりにあずかるようになるためである。わたしたちの交わりとは、父ならびに御子イエス・キリストとの交わりのことである。」
(ヨハネ第一 1:3)

十字架にかかり、よみがえられた救い主との交わりの甘さを味わうのは、わたしたちの特権である。しかしこの状態になるためには、自己を神に明け渡さなければならない。自己放縦というのは、自己否定と十字架を負いつつキリストに従っていないという意味である。自己が最高の場所を求めて奮闘するとき、霊的な知覚力はくもり、目がキリストからそれて、自己という粗末な絵へ向けられる。わたしたちはキリストから離れる余裕はない。わたしたちの信仰の創始者であり、完成者であるイエスを見続けなければならない。……

わたしたちがキリストの栄光を他の人々に反射しつつ、世に光を輝かせるようになり、心の中がすべて明るく照らされるまで、尊く聖なる光がわたしたちの魂の中にさしこむのは、わたしたちがキリストと交わる時である。わたしたちは完全の模範としてキリストをわたしたちの目の前に掲げ続けなければならない。(手紙 48, 1903 年)

神との交わりは魂の生命であり、わたしたちが説明することのできるものでも、美しい言葉で飾ることのできるものでもなく、わたしたちの言葉を本当に価値あるものとするまことの経験を与えるものである。神との交わりは、わたしたちの喜びを本当に完全なものにする日毎の経験をわたしたちに与える。

キリストとのこの一致をもつ人々は、霊と言葉と働きの中でそれを宣言する。言葉と働きの中に良い実があらわれていなければ、公言は役に立たない。お互いと、またキリストとの一致、交わりとは、すなわち生けるぶどうの木の枝に結ばれる実である。再生した清められた魂は、負うべきはっきりとした明らかな証を持つ。…

神を知るとは、霊的な言葉の意味において、贖い主としてこのお方と敬虔な交わりを保ちつつ、このお方について経験による知識を持ちつつ、心と心のうちでこのお方と一つになることである。まじめな服従によってのみこの交わりを得ることができる。…

キリストの無私の奉仕の模範に従いつつ、小さな子供のようにこのお方の功績を信頼して、このお方の命令に従っているなら、わたしたちは神の是認を受ける。キリストがわたしたちの心の内に住んでくださるので、わたしたちの感化はこのお方の義によってかぐわしいものとなる。(ビュー・アソド・ヘアルド 1910 年 6 月 30 日)

熱烈な祈り

「民よ、いかなる時にも神に信頼せよ。そのみ前にあなたがたの心を注ぎ出せ。神はわれらの避け所である。」(詩篇 62:8)

祈りは神に向かって、友に対するように心を開くことである。信仰の目は神を非常に身近に認め、哀願は自分に対する神の愛と心遣いの尊い証拠を得させる。しかしなぜ非常に多くの祈りが応えられないのであろうか。……主はわたしたちに「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば、」という約束を与えておられる(エレミヤ 29:13)。また「真心をもってわたしを呼ば」ない人々についても言われる(ホセア 7:14)。そのような嘆願は形式的な、口先だけの祈りであって、主はお受け入れにならない。…

祈りが必要である。最も真剣で熱心な苦闘する祈り、ダビデが「神よ、しが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ」と叫んだ時にささげたような祈りが必要である。「わたしはあなたのさとしを慕います」。「わたしはあなたの救いを慕います」。「わが魂は絶えいるばかりに主の大庭を慕い、わが心とわが身は生ける神にむかって喜び歌います」。「わが魂はつねにあなたのおきてを慕って、絶えいるばかりです」(詩篇 42:1; 119:40, 174; 84:2; 119:20)。これが格闘している祈りの精神であり、国王である詩篇記者はこのような精神の持主であった。…

キリストについては「苦しみもだえて、ますます切に祈られた」と書かれている(ルカ 22:44)。天の至高者によるこの仲保にくらべて、なんと弱々しく、熱意のない祈りが神にささげられていることであろうか。多くの者が口先だけの祈りで満足しており、神をまじめに、熱心に愛情を込めて慕い求める者はほとんどいない。

神との交わりは神のみ旨についての深い知識を魂に分け与える。……真の祈りは魂のエネルギーを集中させ、その生涯に影響を与える。神のみ前に自分の願いをこのように注ぎ出す人は、天下にある他のことはすべて空虚であると感じる。「主よ、わたしのすべての願いはあなたに知られ、わたしの嘆きはあなたに隠れることはありません」。「わが魂はかわいているように神を慕い…」「これらの事を思い起して、わが魂をそそぎ出すのである」とダビデは言った(詩篇 38:9; 42:2, 4)。(教会への証 4 巻 533 - 535)

あなたの祈りは、拒絶を受け入れないというしつこきをもって上っていくことができる。それが信仰である。(原稿 8, 1892 年)

3月8日

小さすぎるものはない

「主はおのれを待ち望む者と、おのれを尋ね求める者にむかって恵みふかい。」
(哀歌 3:25)

祈りという尊い特権の価値を正しく認め、これを活用する人が少ない。わたしたちはイエスのもとに行き、このお方に自分の必要をすべて申し上げるべきである。わたしたちは大きな困難と同じように、ささいな心配事や困惑をこのお方のもとへ持ち込むことができる。わたしたちを悩ましたり失望させたりすることがおれば、なんであつても祈りのうちにそれを主に訴えるべきである。(教会への証 5 巻 200, 201)

自分の必要や心配、悲しみを救い主のところに持って行くのを怠ることによって、わたしたちは多くの尊い祝福を失っている。このお方は素晴らしい助言者であつて、ご自分の教会を、熱い関心と優しい思いやりに満ちた心で見守つておられる。このお方は、わたしたちの必要の深みにまで入ってきてくださるが、わたしたちの方法が常にこのお方の方法というわけではない。救い主はあらゆる行動の結果を見通し、わたしたち自身で立てた賢明に思える計画ではなく、忍耐強くこのお方の知恵に信頼するようにと、わたしたちに言われる。

祈ることをやめてはならない。もしも応えが遅れるなら待ちなさい。あなたの計画をすべて贖い主の足元に置き、あなたの差し迫った祈りを神のもとに上らせなさい。もしもそれが贖い主のみ名に栄光を帰すものであれば「あなたの言葉のとおりになるように」という気持ちを落ちつかせる言葉が語られるであろう。

わたしたちが熱心な嘆願をすることによってキリストが疲れてしまわれるということは決してない。わたしたちはそうすべきであるほどには神に頼っていない。つぶやきを一言も口に出さないで、神を待ち望んでいる間、信仰と勇気を語りなさい。……疑うことを恐れなさい。疑いが信仰を破壊する習癖とならないようにしなさい。天父のされることが暗く神秘的で説明しがたいものに思えても、このお方を信頼しなければならない。(手紙 123, 1904 年) イエスを信頼する魂にとって、このお方はなんと尊い方であろうか。しかし多くの者が自分の信仰をサタンの影の中に埋めているので、暗闇の中を歩いている。……一瞬たりともサタンに、失望させ悩ませるサタンの力が、擁護し、力づけるキリストの力にまさっていると思わせてはならない。……

ささげられるあらゆるまじめな祈りは、キリストの血の功績が混じる。もしも祈りが延期されるなら、それは神の誓われた言葉を主張しつつ、聖なる大胆さをわたしたちが示すことを神が望まれるからである。約束をされたお方は忠実な方であるから、まったくご自分にゆだねている魂を捨て去ることはない。(原稿 19, 1892 年)

祈りは天を動かす

「求めよ、そうすれば、与えられるであろう。捜せ、そうすれば、見いだすであろう。門をたたけ、そうすれば、あけてもらえるであろう。」(マタイ 7:7)

わたしたちが光と力の源であるお方からもっと受けないのはなぜであろうか。ほとんど期待しないからである。……

わたしたちはそうすべきほどには、祈りの力と効果に価値をおいていない。「御霊もまた同じように、弱いわたしたちを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである」(ローマ 8:26)。神は、わたしたちが祈りのうちにご自分のところに来ることを願っておられる。そうすればわたしたちの思いを啓蒙することがおできになるからである。神だけが真理についてははっきりとした概念を与えることができ、このお方だけが心を和らげ、抑制することがおできになる。このお方は真理と誤りを識別する理解力を刺激し、揺れている思いを定着させ、試練に耐える知識と信仰を、精神に与えることがおできになる。そうであるから祈りなさい。止めることなく祈りなさい。ダニエルの祈りを聞かれた主は、ダニエルが行ったようにわたしたちがこのお方に近づくなら、わたしたちの祈りを聞かれる。

神との親しい交わりのうちに生きようではないか。クリスチャンの喜びは、ご自分の子らに対する神の愛と心配り、また神は彼らの弱さをそのままにして、彼らを置き去りにはされないという保証を自覚することから生じる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 3 月 24 日)

わたしたちはどのように祈るかを知る必要がある。神の特性をしっかりとつかむのは無気力な心のこもらない祈りではない。自分にはその価値がないという自覚によって砕かれた心から祈りがでる時、その祈りは神が聞かれる。祈りはわたしたちの慰めと救いのために設けられており、信仰と希望を通して、わたしたちは神の豊かなみ約束をつかむことができる。祈りは義に対して飢え渇く魂の願いを表現するものである。(手紙 121, 1901 年)

祈りは天が定めた成功の方法である。人と人との間の請願や嘆願また懇願は人々を動かし、国家間の事情を支配する役割を果たす。しかし祈りは天を動かす。祈りに対する答えとして来る力だけが、人を天の知恵に賢いものとし、彼らを見霊の一致のうちに働くことができるようにし、平和のきずなで共に集うことができるようにする。祈りと信仰、神への信頼は、人間の計算を彼らの真の価値、すなわち無にする神の力をもたす。……神が啓発することのできる場所に自分自身を置く者は、いわば夜明けの薄暗がりから、真昼の満ちあふれる輝きにまで進歩向上する。(レビュー・アンド・ヘラルド 1904 年 1 月 28 日)

3月10日

力強い嘆願者イエス

「わたしは彼らのためばかりではなく、彼らの言葉を聞いてわたしを信じている人々のためにも、お願いいたします。」(ヨハネ 17:20)

み使いたちにあがめられているお方であるキリストが嘆願者の態度であることを考えなさい。このお方は、保証と希望についてのご自分の教訓を分け与えるために、生き生きと活気をもって、み父の手に新たな恵みの供給を求める力強い嘆願者であった。月に照らされる時間に、ひざまずいて、ご自分の魂をみ父に注ぎだしておられる姿を見なさい。その熱心な嘆願を見守っている天使たちを見つめなさい。このお方の祈りはわたしたちのために全天に上っていくのである。……

弟子たちは、しばしばキリストがひざまずいて祈っておられるのを目撃し、心が碎かれ、へりくだった。自分たちの主であり救い主であるお方が、立ち上がった時、彼らはこのお方の表情と物腰に何を讀んだであろうか。このお方は義務に備えて元気づけられ、試練に対する準備ができたのであった。キリストの人性にとって、祈りが必要であった。そして自分自身の危険な状態を理解しないで、しばしばサタンの誘惑に陥り、義務からそれて、悪事をおこなうようにと導かれる弟子たちの必要を見る時、このお方の嘆願には激しい叫びと魂の苦悩がしばしば伴った。

キリストの生涯は純潔で汚れがなく、敵の誘惑に屈することを拒まれた。もしもこのお方が一つの点においてでも屈していたなら、人類家族は失われてしまったのである。キリストの弟子であると称する人々の魂に対してサタンが人生ゲームをしているのを見、彼らが少しずつ屈して、魂の防御が弱りきってしまうまになるのを見る時、このお方が耐え忍ぶ苦悩を誰が言い表わすことができるであろうか。わたしたちには、キリストがこの光景に耐えている苦悩についての概念を形成することができない。ひとりの魂が失われること、すなわちひとりの魂がサタンの力に屈するというのは、このお方にとって全世界よりも大きな意味を持つ。……「父よ、それは、あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、みんなの者が一つとなるためであります。すなわち、彼らをもわたしたちのうちにおらせるためであり、それによって、あなたがわたしをおつかわしになったことを、世が信じるようになるためであります。わたしは、あなたからいただいた栄光を彼らにも与えました。それは、わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためであります」という祈りの中になんという力の論拠があることであろうか(ヨハネ 17:21, 22)。(原稿 9, 1906 年)

キリストは、失われた羊を探し求めるお方としてあらわされている。わたしたちをおりに連れ帰り、天国でご自分と共に座するという特権を与えて、わたしたちを抱えているのはこのお方の愛である。(同上 139, 1898 年)

キリストの名によって求める

「わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。父が子によって栄光をお受けになるためである。」(ヨハネ 14:13)

わたしは、わたしたちが神に信頼できることをとても感謝する。そして主は、わたしたちがこのお方に信頼し、このお方にわたしたちのすべての難問を携えてくる時に誉れをお受けになる。……主なるエホバはご自身の愛しか取り巻いていない間は、救いの原則が完成しているとはみなされなかった。神ご自身がご自分の祭壇にわたしたちの性質を取られた仲保者を任命し、配置されたのであった。わたしたちのための仲保者として、このお方の任務はわたしたちを神に、神の息子、娘たちとして紹介なさることである。キリストはご自分を受け入れた人々のためにとりなされる。このお方は、ご自身の功績の徳によって、彼らに王家の一員、天の王の子らとなる力をお授けになる。そして御父は、キリストの友をご自分の友として受け入れ、歓迎なさることによって、ご自分の血をもってわたしたちの贖い代を支払われたキリストに対する無限の愛を示されるのである。このお方はなしとげられた贖罪に満足なさる。ご自分の御子の受肉、命、死、そしてとりなしによってこのお方は栄光をお受けになる。

キリストの御名によってわたしたちの嘆願は御父に上る。このお方はわたしたちのためにとりなして下さる。そして御父はご自分の恵みのあらゆる宝を、わたしたちが享受し他人に伝授するために、わたしたちのものとして開放して下さる。キリストはわたしの名によって求めなさい、と仰せになる。わたしはあなたがたのために御父に祈ろうとは言うまい、なぜなら、御父ご自身があなたがたを愛しておられるからである。それはあなたがたがわたしを愛したからである。わたしの名を用いなさい。それによってあなたの祈りは力あるものとなる。そして御父はあなたにご自分の恵みの富をお授けになる。であるから、求めなさい、そうすれば与えられる。それはあなたがたの喜びが満ちあふれるためである。

何というへりくだりであろう!わたしたちには何という特権が与えられていることであろう!キリストは神と人との間をつなぐ輪であられる。……わたしたちがキリストの功績の徳を通して神に近づくとき、わたしたちはこのお方の祭司の服で覆われる。このお方はわたしたちをご自分の傍ら近くに置き、わたしたちをご自分の人間のみ腕をもっていただき、もう一方の神のみ腕は無限のみ座をつかまれるのである。このお方はご自分の功績をわたしたちの手にある香炉に芳しい香りとして入れて下さる。それはわたしたちの嘆願を奨励するためである。このお方はわたしたちの哀願を聞き、答えると約束しておられる。しかり、キリストは人と神との間の祈りの媒体となられた。このお方はまた神と人との間の祝福の媒体となられた。このお方は神性と人性を結合された。(手紙 22, 1898 年)

3月12日

わたしたちが天父に近づく

「よくよくあなたがたに言うておく。あなたがたが父に求めるものはなんでも、わたしの名によって下さるであろう」(ヨハネ 16:23)

わたしたちは、わたしたちの仲保者キリストの御名によって祈らなければならない。わたしたちの嘆願はこのお方の御名によって捧げられる時にのみ価値がある。このお方は罪が生じさせた深淵に橋をかけられた。このお方の贖罪の犠牲によって、このお方はご自分を信じる者たちをご自身と御父とに結びつけて下さった。このお方の御名だけが天下にわたしたちを救い得る名なのである。

わたしたちは自分たちの罪や過ちを考えてあまりにも圧倒されて祈りを止めてしまうようであってはならない。ある者は自分たちの大変な弱さと罪を悟り、意気消沈してしまう。サタンは彼らと彼らの贖罪の犠牲であられる主イエスの間に暗雲を投げかける。彼らは、わたしが祈っても意味がないと言う。わたしの祈りには、あまりにも邪悪な考えが入り混じっているため、主はそれらをお聞きにならない、と。

これらの暗示はサタンからのものである。キリストはご自分の人性のうちにこの誘惑に抵抗された。そしてこのお方は、このように誘惑されている人々をどのように救助するかをご存知である。わたしたちのためにこのお方は「激しい叫びと涙とをもって、祈と願いとをささげ」てくださったのである(ヘブル 5:7)。

多くの人が、自分たちの疑いがサタンから来たものだとかわずに、臆病になり、戦いで打ち負かされてしまう。あなたの思想が邪悪であるからといって、祈ることをやめてはならない。もしわたしたちが、自分自身の知恵と力で正しく祈ることができるならば、わたしたちは正しく生きることでもできるし、したがって贖罪の犠牲も必要ないのである。しかし、不完全さがすべての人類の上にある。思いを教育し、訓練して、自分が何を必要としているかを単純に主に申し上げられるようにしなさい。あなたが神に罪の許しを求めつつ、自分の嘆願をささげるとき、より純潔でより聖潔な雰囲気があるあなたの魂を囲むのである。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1903 年 11 月 18 日)

主はわたしたちが、祈りにおいてもっと向上し、またさらに増し加えられた信仰と力をもって自分の霊的な犠牲をささげることが望んでおられる。……このお方はわたしたちの贖いのためにご自身の御子をお与えになった。もし生きた信仰によって、わたしたちがこのお方を自分の救い主として受け入れるならば、わたしたちは神が共におられる優位な立場におかれるのである。なぜなら、キリストがご自分の御父の前で「彼らの罪をわたしに負わせてください。わたしは彼らの罪を負います。彼らはわたしの所有です。わたしは彼らをわがたなごころに彫り刻みました」と仰せになって、立っておられるからである。わたしたちのためにこのお方はご自分の御父の前で十字架のしるしを示される。このお方はこのしるしを永遠にわたって負われるのである(原稿 91, 1901 年)

わたしたちの個人的な仲保者

「だれが、わたしたちを罪に定めるのか。キリスト・イエスは、死んで、否、よみがえって、神の右に座し、また、わたしたちのためにとりなして下さるのである。」
(ローマ 8:34)

主イエスはあなたの個人的な仲保者であられる。……一日の間に何度も何度も、たくさん繰り返して言いなさい「イエスはわたしのために死なれた。このお方はわたしが危機に瀕して、破滅にさらされているのをご覧になって、わたしを救うためにご自分の命を注ぎだしてくださった。このお方は魂が、ご自分の足許でひれ伏して震えて嘆願するのを無情にご覧になるようなことはない。そしてこのお方はわたしを必ず起こしてくださる」と。このお方は人のための仲保者となられた。このお方はご自分を信じる人々を引き上げて、祝福の宝庫を彼らの思いのままにしてくださった。人は、自分の同胞の一つとして祝福を与えることができないし、彼らは一つとして罪のしみを取り除くことはできない。何かを成し遂げるとすれば、それはただキリストの功績と義だけである。しかし、これが満ち溢れるほど豊かに、わたしたちの勘定に記帳されるのである。わたしたちは毎瞬、神を頼みとすることができる。わたしたちがこのお方にふり向くとき、このお方は「わたしはここにいます」と答えてくださる。

キリストはご自分を仲保者であると宣言なさる。このお方はわたしたちが、喜んでわたしたちの身代わりとなってくださったことを知って欲しいと望んでおられる。このお方はご自分の功績をご自分の聖徒たちの祈りと共に捧げるために、金の香炉に入れてくださる。それによってご自分の愛しい子らの祈りが、香の煙の中におられる御父の許へ上っていくとき、キリストの芳しい功績と交じり合うためである。

御父はご自分の悔いた子らの祈りをすべてお聞きになる。地上からの嘆願者の声はわたしたちの仲保者のみ声と一つになる。このお方は天で嘆願しておられて、このお方の声を御父は必ずお聞きになるのである。であるから、わたしたちの祈りが絶えず神に上るようにしよう。それらがだれか人間の名によってではなく、わたしたちの身代わりであり、保証人であられるお方の御名によって上るようにしよう。キリストはわたしたちがご自分の御名を用いるようにと与えてくださった。…

イエスはあなたをご自身の友として受け入れ、歓迎してください。このお方はあなたを愛しておられる。このお方はあなたの前にあなたが用いるようにと、ご自分の恵みの宝をすべて開放すると誓ってくださった。このお方は「その日には、あなたがたは、わたしの名によって求めるであろう。わたしは、あなたがたのために父に願ってあげようとは言まい。父ご自身があなたがたを愛しておいでになるからである。それは、あなたがたがわたしを愛したため、また、わたしが神のみもとからきたことを信じたためである」(ヨハネ 16:26, 27)。このお方は事実上、わたしの名を用いなさい。そうすれば、それはわたしの御父の心、また御父の恵みのあらゆる富へのパスポートとなると仰せになっているのである。(手紙 92, 1895 年)

聖霊のとりなし

「御霊もまた同じように、弱いわたしを助けて下さる。なぜなら、わたしたちはどう祈ったらよいかわからないが、御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである。」(ローマ 8:26)

わたしたちは、キリストの名によって祈るだけではなくて、聖霊に感じて祈らなければならない。「御霊みずから、言葉にあらわせない切なるうめきをもって、わたしたちのためにとりなして下さるからである」といわれているのは、そのことを説明している。このような祈りを神は喜んで聞いてくださるのである。熱心に力をこめて、キリストの名によって祈るならば、そのような熱心さをもって祈ること自体が、「求めた思うところのいっさいを、はるかに越えて」神がわたしたちの祈りに答えようとしておられることの神の保証なのである。(キリストの実物教訓 126)

聖霊はその力と恵みを求める人々に与えられ、わたしたちが神と謁見するときに、弱いわたしたちを助けてくださる。天はわたしたちの嘆願に対して開かれている。そして「わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づ」くようにと招かれている(ヘブル 4:16)。わたしたちは、自分がまさにこのお方に求めたものを得ると信じて、信仰のうちにこなければならぬ。(サインズ・オブ・ザ・タイムズ 1892年4月18日)

わたしたちは自分たちの魂の保護を誠実な創造主としての神に委ねることができる。それはわたしたちに罪がないからではなく、イエスがわたしたちのような過ちに陥り、欠陥のある被造物を救うために死なれ、こうしてこのお方が人間の魂の価値をどのように見積もっているのか表現してくださったためである。わたしたちは神により頼むことができる。それはわたしたち自身の功績のためではなく、キリストの義がわたしたちに与えられるからである。……

神のみ言葉には、わたしたちのために豊かな約束がある。救いの計画は十分である。わたしたちのために作られたのは、狭くて限られた備えではない。わたしたちは一年前、あるいは一ヶ月前に与えられた証拠に信頼しなくてもよい。そうではなく、わたしたちは今日、イエスが生きてわたしたちのためにとりなして下さっているという確証を得ることができる。(レビュー・アンド・ヘラルド 1884年4月22日)

神は信仰が弱く、間違いを犯すご自分の過ちの多い子らをお見捨てにならない。主は彼らの祈りと彼らの証に耳を傾け、お聞きになる。イエスを毎日、毎時間見ている人々、祈りつつ見張っている人々はイエスに近づいているのである。御使たちが翼を広げて、彼らの悔悟の祈りを御父の許へ携えていき、それらを天の書物に記録しようと待っている。(SDAバイブルメンタリー [E・G・ホワイト・コメント] 4巻 1184)

信仰のうちに求める

「そこで、あなたがたに言うが、なんでも祈り求めることは、すでになおされたと信じなさい。そうすれば、そのとおりになるであろう。」(マルコ 11:24)

「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をするを知っているとすれば、天にいますあなたがたの父はなおさら、求めてくる者に良いものを下さらないことがあろうか」(マタイ 7:11)。これらの賜物は神からわたしたちに惜しみなく与えられている。ああ、わたしたちの信仰は何と弱いことであらうか。そのためにわたしたちは豊かで栄光に富んだ神のみ約束を自分のものとするのができないのである!ご自分の賜物をわたしたちに与えてくださるというのが、このお方の性質である。あらゆる知恵に満ちたもの、あらゆる力強いものを、このお方は信仰のうちに求めるすべての人に惜しみなく与えてくださるのである。このお方は地上のどんな親よりも、もっとあわれみ深く、もっと優しく、もっと忍耐深く愛情深い。(レビュー・アソド・ヘラルド 1900 年 10 月 30 日)

キリストを信じる人は、高尚で聖なる目的に献身する。……神のご目的に従って召され、神の恵みによって区別され、キリストの義で覆われ、聖霊を吹き込まれて、砕けて悔いた心のいけにえを捧げつつ、真の信者はまさに贖い主を代表する。

そのような礼拝者を、神は喜んでご覧になる。神はもし人が知恵に欠けているときに、自分の密室に行って祈り、すべての人に惜しみなくとがめだてすることなく与えてくださる方に知恵を求めるならば、ご自分の光を思いと魂の宮の部屋に輝かせてくださる。み約束は、「あなたがたのうち、知恵に不足している者があれば、その人は、とがめもせず惜しみなくすべての人に与える神に、願い求めるがよい。そうすれば、与えられるであろう。ただ、疑わないで信仰をもって願い求めなさい。疑う人は、風の吹くままに揺れ動く海の波に似ている」のである(ヤコブ 1:5, 6)。……

堅固で二心のない信頼を神に対して示しなさい。いつも原則に忠実でいなさい。揺れ動いてはならない。……

信じる者には、すべてのことが可能である。誠実な心をもって主の許に来る者は一人として失望させられることがない。わたしたちに効力のある祈りができるといふこと、無価値で誤りの多い死すべき者に自分たちの要求を神にささげる力があるということは何とすばらしいことであらう!

人はこれ以上高い力、すなわち、無限の神とつながること以上を要求することができようか。弱くて、罪深い人間が自分の造り主に語る特権にあずかっているのである。わたしたちは宇宙の君主の御座に届く言葉を口にするのである。わたしたちは密室で自分たちの心の願いをそそぎだす。それから、わたしたちはエノクのように神と共に歩むために出て行くのである。(レビュー・アソド・ヘラルド 1900 年 10 月 30 日)

3月16日

神のみ旨に従って

「わたしたちが神に対していただいている確信は、こうである。すなわち、わたしたちが何事でも神の御旨に従って願い求めるなら、神はそれを聞きいれて下さるということである。そして、わたしたちが願い求めることは、なんでも聞きいれて下さるとわかれば、神に願い求めたことはすでにかなえられたことを、知るのである。」(ヨハネ第一 5:14)

あなたが地上の祝福を求めて祈るとき、主はあなたの望むものをあなたに与えることが、あなたの益や、ご自分の栄光のためにならないのをご覧になるかもしれないということを覚えていなさい。しかし、このお方は、あなたに最善のものをお与えになることによって、あなたの祈りに答えてくださる。

パウロが自分の肉体にあるとげが取り除かれるようにと祈ったとき、主はとげを取ることによってではなく、彼に試練に耐える恵みをお与えになることによって、彼の祈りに答えてくださった。このお方は、「わたしの恵みはあなたに対して十分である」と仰せになった。パウロは自分の祈りにこのように答えてくださったことを喜んで、次のように言った。「それだから、キリストの力がわたしに宿るようにむしろ、喜んで自分の弱さを誇ろう」(コリント第二 12:9)。病人が健康の回復を祈るとき、主は必ずしも彼らが望むようには彼らの祈りにお答えにならない。しかし、たとえ彼らが直ちに癒されなくても、このお方は、はるかに価値のあるもの、すなわち自分たちの病気に耐える恵みを彼らに与えてくださるのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1903 年 11 月 18 日)

創造主に、あなたの求めを申し上げなさい。砕けた心をもって、神に来るものは、だれ一人しりぞけられることはない。心からの祈りは、決して消えてしまうものではない。天の聖歌隊の賛美を受けておられる神は、弱々しい人間の叫びをも聞かれる。わたしたちが、へやの中で心の願いを申し上げたり、あるいは、道を歩きながら祈ったりすると、そのことばは宇宙の王のみ座にまで達する。それはだれの耳にも聞こえないであろうが、消え去ってしまったり、忙しい仕事に取りまぎれて、なくなったりしない。何も、人の心の願いを消し去ることはできない。祈りは街頭の騒音や群衆の混雑をこえて、天の宮廷へと上っていく。わたしたちが語りかけているのは、神である。そして、神は、わたしたちの祈りを聞かれるのである。自分にはなんの価値もないと感じる人も、神に自分の願いをゆだねるのをためらってはいけない。(キリストの実物教訓 155)

祈りには強力な力がある。わたしたちの大敵は困惑した魂を神から引き離しておこうと絶えず努力している。最もつましい聖徒の天への懇願が、国会の法令や諸王の命令以上に、サタンを恐れさせるのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1881 年 10 月 27 日)

靈的な力の秘訣

「しかし主を待ち望む者は新たなる力を得、わしのように翼をはって、のぼることができる。走っても疲れることなく歩いても弱ることはない。」(イザヤ 40:31)

努力が報われて成功するためには、多くの祈りが必要である。祈りは力をもたらす。祈りは、「彼らは信仰によって、国々を征服し、義を行い、約束のものを受け、ししの口をふさぎ、日の勢いを消し、……他国の軍を退かせた」(ヘブル 11:33, 34)。

イエスは神への依存と、このお方との交わりのうちに生涯を送られた。いと高き者のもとにある隠れ場に来て、全能者の陰の下で、人は時折回復する。彼らは一時宿り、そして結果は高尚な行いに現れる。それから、彼らの信仰が衰え、交わりは中断され、そして生涯の働きが損なわれる。しかしイエスの生涯は絶えざる交わりによって支えられる絶えざる信頼の生涯であった。そしてこのお方の天地のための奉仕は失敗することも、くじけることもなかった。

クリスチャンの働き人たちは、彼らが力の秘訣を学ばない限り、決して最高の成功を収めることはできない。彼らは、身体的、精神的、そして靈的に一新されるために、考え、祈り、神を待ち望む時間を取らなければならない。彼らは聖靈に引き上げていただく必要がある。これを受けて、彼らは新鮮な命によって活気付けられるのである。弱った心と疲れた頭脳は回復され、重荷に疲れた心は休息を得る。(手紙 1, 1904 年)

祈りは魂の呼吸である。それは靈の力の秘訣である。恵みの他の手段では代わりとならない。それで魂の健康を保つことはできない。祈りは心を直ちに命の湧き水に触れさせ、宗教経験の腱と筋肉を強める。(福音宣伝者 254, 255)

家族の祈りと公の祈りにはそれぞれの役割がある。しかし、魂の命を支えるのは神との密室での交わりである。モーセが神の栄光の宿る場所となるすばらしい建物の原型を見たのは、神と山にいたときであった。わたしたちが人類のための栄光に満ちたこのお方の理想を熟考するのは、神と山にいたとき、すなわち交わりの密室にいたときである。こうしてわたしたちは自分の品性の建物を、次の約束がわたしたちに成就する方法で築くことができるのである。「わたしは彼らの間に住み、かつ出入りをするであろう。そして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう」(コリント第二 6:16)。(同上)

3月18日

静かな心の叫び

「あなたは彼らをみ前のひそかな所に隠して人々のはかりごとを免れさせ、また飯屋のうちに潜ませて舌の争いを避けさせられます。」(詩篇 31:20)

男も女も生活の忙しい活動の中で、数多くのわずらいにせき立てられるとき、彼らはひざまずいて生活することができない。しかし、市場においてさえ、そこには絶えず、すべての取引を目撃している目撃者がいて、天の書は不正な方法で得たすべての金銭を一円ごとに詐欺として記録している。人は市場ではひざまずくことができないけれども、静かに天に捧げる熱心な心の願いは目撃者たちを通して御父へ届く道を見出すのである。神の御座への道は開かれている。そして自分の前に神への畏れをいだき、このお方の勧告のとおりに歩みたいと願うすべての人々は、込み合った群衆の中でも、礼拝堂にいるときと同じように、このお方のみ旨を行うためにこのお方の御力を求めるのである。……

神を愛し、畏れるすべての人に、人生の仕事上の取引において訪れる誘惑にあうときいつも、どのようにしていと高き者の飯屋の奥まった場所に退き、そこにとどまり、安全でいられるかを知る機会がある。そのとき、彼は約束の背後におられるお方の力の強さと完全さを感じるので、神に誉れを帰するのである。彼はだれも見ておらず、だれも聞いていない場所で神と交わる。

主が求められることはただ、自発的な思いをもって主の道に歩むことだけである。もし純潔な心があるならば、彼は神を見、そして最も忙しく、興奮した群衆の中にいてさえ、義務のためにそこに居ることが要求される場合には、このお方の保護の力を感じるのである。……

そのような場所で、すべて心から、本当にキリストを受け入れる人は、……命のともし火を携えるのである。……

わたしたちは、好ましい状況においてのみ保つような宗教を持っていたはならない。状況に左右される宗教は、それが最も必要とされているとき、最も困難な状況においては必ずくじけてしまう。聖書の宗教は、好ましくない状況、すなわち市場や作業場でも、祈りとするのが常である場所にあるのと同様に、福音のともし火が明々と燃やし続けられることを要求する。最も純潔なクリスチャンの原則はどこでも保つことができる。キリストを愛し、自分の個人的な救い主として信じるとき、わたしたちはこのお方の恵みとこのお方の守護者としての保護をどこにいても要求することができるのである。(原稿 194, 1898 年)

あなたの祈りの時間を熱心に守りなさい

「神よ、しがが谷川を慕いあえぐように、わが魂もあなたを慕いあえぐ。」(詩篇 42:1)

天の王国の市民である人は、絶えず見えないものに目を注いでいる。思いや品性に及ばず地上の力は打ち破られる。彼には、次の約束のとおり、天の賓客の絶えざるご臨在がある。「わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう」(ヨハネ 14:21)。彼はエノクがそうしたように、絶えざる交わりのうちに神と共に歩む。……

毎日誘惑がからみつき、絶えず民の指導者たちの反対を受けられたので、キリストはご自分の人性が祈りによって強められねばならないことをご存知であった。人類の祝福となられるためには、このお方はエネルギーと忍耐と堅固さを嘆願しつつ、神と交わられなければならなかった。このようにしてこのお方はご自分の強さがどこにあるのかをご自分の弟子たちにお示しになった。この神との日ごとの交わりなしには、人類のだれ一人として、奉仕のための力を得ることができない。自分自身を、そのすべての試練や誘惑、悲しみ、失望と共に、天の愛する御父に委ねることが、すべての人の特権である。こうする人、神を自分の確証とする人はだれ一人として、敵の餌食となることはない。

「この大祭司は、わたしたちの弱さを思いやることのできないようなかたではない。罪は犯されなかったが、すべてのことについて、わたしたちと同じように試練に会われたのである。だから、わたしたちは、あわれみを受け、また、恵みにあずかって時機を得た助けを受けるために、はばかりことなく恵みの御座に近づこうではないか」(ヘブル 4:15, 16)。……

あなたの祈りと自己吟味のための時間を熱心に守りなさい。毎日聖書研究と神との交わりのための時間をとっておきなさい。こうしてあなたは霊的な強さを自分のものとし、恵みと神の恩寵のうちに成長する。このお方だけがわたしたちの思想を正しく導くことがおできになる。このお方だけが、わたしたちに高尚な大望を与え、わたしたちの品性を神に似たかたちに形作ることがおできになる。もしわたしたちが熱誠な祈りのうちに神に近づくならば、このお方はわたしたちの心を高尚で聖なる目的と、純潔と思想の清さに対する深く熱心な切望で満たしてください。

このお方は純潔な心をもってご自分に奉仕する人々に最も豊かな祝福を与えてくださる。このお方はご自分の命令に対して心を開き、ご自分のみ声に従う一人びとりを教えてください。(ビュー・アズ・ヘアルド 1910年11月10日)

3月20日

祈りの密室

「いと高き者のもとにある隠れ場に住む人、全能者の陰にやどる人」(詩篇 91:1)

神の御座への道はいつでも開かれている。あなたはいつも祈りのうちにひざまずいていることはできないが、あなたの静かな嘆願は絶えず力と導きを求めて神の許へ立ち上ることができる。誘惑されるとき、そのときに訪れるであろうが、あなたはいと高き者の隠れ場に逃れることができる。このお方とこしえのみ腕はあなたを下で支えてくださる。(健康への勧告 362)

わたしたちは特別な招きをいただいて、神のもとに来る。神はわたしたちを謁見室に迎え入れようと待っておられる。……わたしたちは、神とのきわめて親しい交わりにはいることを許されるのである。(祝福の山 163, 164)

へりくだった心で祈りなさい。頻繁に祈りのうちに主を求めなさい。密室で、一人で、目はイエスを見、耳はイエスに向かって開かれる。あなたは、全能者の陰にやどるために祈りの密室から出てくる。誘惑が訪れる。しかしあなたは、イエスのそば近くにますます身を寄せて、自分の手をこのお方の御手のうちに置く。そのときあなたは豊かな経験を得、このお方の愛のうちに憩い、このお方の憐れみのうちに喜ぶのである。懸念と困惑とわずらいは去り、そしてあなたはイエス・キリストにあつて喜ぶ。魂は御父のみ声を聞くのにすばやく、そしてあなたは神と交わる。すべての批判は追い払われ、他の人を裁くことがことごとく魂から追放されてしまったのである。……

イエス・キリストには品性のかぐわしさがある。品性の高尚さと、またその清廉さと純潔が発達する。なぜなら、眺めることによってあなたはキリストのみかたちを反映するからである。神の息子、神の娘であるわたしたちは、このお方に似た者とならなければならない。そしてこの神との緊密な関係において、わたしたちは神のみわざをためす力と天与の才能を授かるのである。……

ああ、神の奉仕において、わたしたちは何という喜びを経験することであろう！何という平安、何という喜びと休息であろう。王家の家族、天の王の子ら！「わたしたちがどうなるのか、まだ明らかではない。彼が現れる時、わたしたちは、自分たちが彼に似るものとなることを知っている」(ヨハネ第一 3:2)。このような望み、このような関係、またあらゆる偉大で尊い可能性があるのだから、わたしたちの信仰は今よりもっと多くをつかむべきではないであろうか。わたしたちはどんな困難な状況下にあつても必ず成就し、失望することのない希望と勇氣に鼓舞されるべきではないであろうか。(手紙 110, 1893 年)

「一心に」

「あなたがたはわたしを尋ね求めて、わたしに会う。もしあなたがたが一心にわたしを尋ね求めるならば」(エレミヤ 29:13)

多くの者たちは、神の御座の前に傷なく立つことができるために、自分たちにとって重要不可欠な経験をしてこなかった。神は、不純物を焼き尽くし、精錬し、純潔にし、また彼らを罪や、自己愛の汚れから清めるために、そして彼らが神を知り、エノクのようにイエス・キリストと共に歩むことによって、このお方と親しむようになるために、苦難の炉の火が彼らの上に灯されるのを許される。……

習慣にしたがって、いわゆる朝夕の祈りをするとき、その祈りはいつも熱心で効果があるとは限らない。眠たげでぼんやりした、気持ちのこもらない言葉の繰り返しである場合が多く、主の耳に届かない。神はあなたの儀式的な賛辞を必要としておられないし、要求してもおられない。そうではなく、このお方は、砕けた心、罪の告白、魂の悔悟を尊重なさる。へりくだった砕けた心の叫びをこのお方は軽しめられない。…

わたしたちはキリストのためには苦しむこと、また死ぬことさえ特権であるとみなすような愛をこのお方に対していなければならぬ。わたしたちは主に自分たちのすべての試練を申し上げることができる。自分たちのすべての弱さ、自分たちがまったくこのお方の大権とこのお方の御力により頼んでいることを申し上げることができる。これが真の祈りである。もし恵みと嘆願の御霊がわたしたちの上に注がれ、神ご自身がわたしたちの祈りを言葉にして下さる必要のある時があるとすれば、それは今である。そしてすべての教会の前に約束が提示され、真理の単純さを熟考しなければならない。「求めなさい、そうすれば、与えられるであろう」(ヨハネ 16:24)。わたしたちが必要なのは信仰、生きた信仰である。…

主はご自分の民を先導し、彼らを導いてくださる。神からダニエルに命令が下されたように、自分たちの危急のときに、恵みの御座に熱心なとりなしをしている人々を助けよとの命令が出される。(原稿 6, 1889 年)

わたしたちはキリストに向かって心を開かなければならぬ。わたしたちはもつとはるかに固い信仰、そして熱心な献身が必要である。わたしたちは自己に死ぬ必要がある。そして思いと心に、わたしたちの救い主に対する崇敬の愛を抱く必要がある。わたしたちが一心に主を求めるとき、わたしたちはこのお方を見出し、そしてわたしたちの心はこのお方の愛でありますことなく明々と輝くのである。自己は無意味になり、そしてイエスが魂にとってすべてのすべてとなる。(教会への証 6 巻 51)

3月22日

去らせない信仰

「ヤコブは答えた、『わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません』。」
(創世記 32:26)

他人の欠点を語ることが好きなあなたは、目覚めて、あなた自身の心の中を見てごらん下さい。あなたの聖書を取って、熱心な祈りのうちに神の御許へ行きなさい。このお方に、自分自身を知ること、またあなたの弱さ、あなたの罪と愚かさを、永遠の光のうちに理解することを教えてくださいと願いなさい。あなたが天の見ている前で立っているかのように自分自身をあらわにして下さいとこのお方に求めなさい。これは個人個人の働きである。……へりくだって、神にあなたの嘆願をしなさい。そしてあなたが、主がわたしのためにして下さったことを聞きなさいと言うことができるようになるまで、すなわちあなたが生きた証を担い、勝ち取った勝利について語ることができるまで昼も夜も休んではならない。

ヤコブは勝利を得るまで一晩中格闘した。夜が明けるとき、御使は、「夜が明けるからわたしを去らせてください」と言った。しかしヤコブは、「わたしを祝福してくださらないなら、あなたを去らせません」と答えた。この祈りは聞かれた。「その人は言った、『あなたはもはや名をヤコブと言わず、イスラエルと言いなさい。あなたが神と人との、力を争って勝ったからです』。」(創世記 32:26 - 28)。

わたしたちはヤコブの堅忍さとエリヤの不屈の信仰を必要としている。何度も、エリヤは雲が出てきていないかと僕を見に行かせたが、雲は少しも見られなかった。ついに、七度目に、僕は次の言葉をもって戻ってきた。「海から人の手ほどの小さな雲が起っています」(列王紀上 18:44)。エリヤは後ずさりして、わたしはこの証拠を信じない、わたしは天が黒雲に覆われるまで待つと言っただろうか。否、彼は、さあわたしたちは行こう、と言った。彼は神からのしるしにすべてをかけて、自分の前に使いを遣わし、アハブに豊かな雨音がすることを告げさせたのであった。

わたしたちが必要としているのはこのような信仰である。しっかりとつかんで去らせない信仰である。靈感はわたしたちにエリヤもわたしたちと同じような感情の下にある人であったことを教えている。天は彼の祈りを聞いた。彼は雨が降らないようにと祈った。そして雨は降らなかった。今度は雨が降るようにと祈った。そうしたら、雨が降った。そうであれば、なぜ主が今日ご自分の民のためにお聞き入れくださらないことがあろうか。ああ、主がわたしたちにご自分の御霊を吹き込んでくださるように! ああ、幕がまき去られて、わたしたちが信心の奥義を理解できるように! (ビュー・アンド・ヘルド 1900年1月9日)

従順の精神

「絶えず祈りなさい。」(テサロニケ第一 5:17)

しばしばあなたの天父に祈りなさい。あなたが祈りに従事すればするほど、ますますあなたの魂は神に近づき、神との神聖な近さに入るようになる。聖霊は言葉にあらわせない切なるうめきをもって、真心からの嘆願者のためにとりなしをしてくださり、そして心は神の愛によってやわらげられ、従わせられる。サタンが魂の周りに投げかけた雲や影は義の太陽の明るい光線によって追い払われ、思いと心の部屋が天の光によって照らされるのである。

もしあなたの祈りがすぐに答えられないように見えても 失望してはならない。主はしばしば祈りに世俗が交じり合っているのをご覧になる。人は自分自身の利己的な欲望を満足させるために祈る。そうすると主は彼らが期待するとおりに彼らの要求を満たされない。神は彼らがもつとはっきりと自分の必要を悟るまで、彼らにテストや試練をくぐらせ、彼らに屈辱を通らせられる。神は彼らに低俗な食欲を満足させたり、人間に害となり、彼を神への恥としたりするようなものはお与えにならない。神は彼らの野心を満足させ、単に自己称揚のためにしかないものはお与えにならない。わたしたちが神の御許に来るとき、わたしたちは従順になり、心の悔悟を持って、すべてのことをこのお方の聖なるみ旨に従わなくてはならない。

ゲッセマネの園で、キリストは御父に祈って次のように仰せになった、「わが父よ、もしできることでしたらどうか、この杯をわたしから過ぎ去らせてください」(マタイ 26:39)。このお方が過ぎ去らせてくださいと祈られた、このお方の魂にとってあまりにも苦いように思えた杯とは、世の罪の結果の神からの分離という杯であった。……「しかし、わたしの思いのままにではなく、みこころのままになさって下さい」(同)。キリストが神のみ前に捧げられたその祈りにおいて、キリストが表された従順の精神は神に受け入れられる精神である。魂がその必要と、その無力さと、その無価値さを感じるようにしなさい。助けを求める熱烈な願いのうちに、全精力を呼びさしなさい。そうすれば助けは来る。……信仰が闇を貫くようにしなさい。闇のうちにあっても、光のうちにあるときと同様、次の言葉を繰り返して、神と共に歩みなさい。「約束をして下さったのは忠実なかたである」(ヘブル 10:23)。わたしたちの信仰の試練を通して、わたしたちは神に信頼するよう訓練されるのである。(ビュー・アソド・ヘアルド 1895年11月19日)

3月24日

家庭における祈り

「絶えず祈りと願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。」(エペソ 6:18)

もしすべての家庭が祈りの家となるべきときがあるとすれば、それは今である。背信と懐疑主義がはびこっている。邪悪があふれ、そしてその結果、多くの人の愛が冷えている。……

そしてこの恐るべき危機の時代にさえ、クリスチャンであると公言するある者たちは、家庭に祭壇を持っていない。彼らは家庭において神を尊ぶこともなければ、子供たちに神を愛し、畏れることを教えないのである。……

祈りが重要ではないという考えは、サタンが魂を破滅させるのに最も成功をおさめた策略の一つである。祈りは知恵の泉、力と平安と幸福の源であられる神に思いを述べることである。祈りには、神の完全さを認め、受けた恵みを感謝し、悔いて罪を告白し、そして自分たちとまた他人のために、神の祝福を熱心に嘆願することが含まれている。

イエスは御父に激しい叫びと涙とをもって祈られた。パウロは信者たちに「絶えず祈りなさい」と強く勧めている(テサロニケ第一 5:17)。「何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい」(ピリピ 4:6)。……神にはわたしたちの献身をお命じになる権利がある。このお方の権威は神聖にして、疑問の余地のないものである。わたしたちは、神が祈りを要求なさるので、祈る義務の下にある。そしてこのお方のご要求に従うとき、わたしたちは、恵み深く尊い報いを受けるのである。……

両親は祈りによって、子供たちの周囲に垣を築くべきである。彼らは神が彼らと共に宿り、聖天使たちが彼ら自身と自分の子供たちをサタンの残酷な力から守ってくださるという完全な信仰を持って祈るべきである。……

父親と母親の方々、少なくとも朝夕に、自分自身と自分の子供たちのためにへりくだった嘆願をなし、神に向かってあなた方の心を上らせなさい。あなたの愛しい者たちは誘惑と試練にさらされている。焦燥と不安が、毎日老若の道にからみついている。そして日常の困惑の中にあっても、忍耐強く、愛すべき、快活な生涯を送りたい人々は祈らなければならない。この勝利はただ断固とした揺るがない目的と、絶えざる見張りと、継続的な神からの助けによってのみ獲得できるのである。(サイン・オブ・ザ・タイムズ 1884年8月7日)

尊い機会である祈祷会

「また、よく言うておく。もしあなたがたのうちのふたりが、どんな願い事についても地上で心を合わせるなら、天にいますわたしの父はそれをかなえて下さるであらう。ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には わたしもその中にいるのである。」(マタイ 18:19, 20)

主はふたりまたは三人がご自分の御名によって集まっているところへはご自分もその中におられると約束なさった。祈りのために共に集まった人々は、聖なる者に油を注がれるのである。密室の祈りが大いに必要とされているが、何人かのクリスチャンが共に集まって、一致して自分たちの嘆願を神に熱心に捧げることにもまた必要である。(ビュー・アンド・ヘラルド 1896年6月30日)

祈りがささげられるところへは、努めて機会あるごとに行かねばならない。神とほんとうに交わりたいと求める人は、祈祷会に出席し、自分の義務を忠実に尽しできるかぎりの利益を得ようと思って熱心である。彼らは、天からの光を受けるところへはできるだけ機会をつくっていく。(キリストへの道 134, 135)

わたしたちは思想や気持ちを交わすことによって互いに啓発し、お互いの希望や大望を知ることによって力と光と勇気を集めるために共に集まるのである。そして信仰のうちに捧げるわたしたちの熱心で心からの祈りによって、わたしたちは自分たちの力の源であるお方から回復と活力とを受ける。これらの集会は最も尊い時となるべきである。……

すべての人が宗教生活において、同じ経験をするのではない。しかし様々な経験を持つ人々が共に来て、思いの単純さとへりくだりをもって自分たちの経験を語る。クリスチャンの道を前進しようと追いつめられているすべての人々は生きた経験、新しく興味深い経験を持つべきであるし、持つのである。生きた経験は日毎の試練、闘い、誘惑、強力な努力と勝利、そしてイエスを通して得た偉大な平安と喜びからなっている。このような経験を単純に述べることによって、他の人々が神聖な生涯を前進する際に、助けとなる光や力、そして知識を与えるのである。(教会への証 2巻 578, 579)

あなたの思いを、聖書を愛し、祈祷会を愛し、瞑想の時間を愛し、そして何よりも魂が神と交わる時間を愛するように教育しなさい。(同上 268)

3月26日

祈りにおける交わりの祝福

「そのとき、主を畏れる者は互に語った。主は耳を傾けてこれを聞かれた。そして主を畏れる者、およびその名を心に留めている者のために、主の前に一つの覚え書が生じられた。」(マラキ3:16)

もしクリスチャンが共に交わって、互いに神の愛と尊い贖罪の真理について語り合うならば自分の心がうるおされ、お互いの心がうるおされるのである。わたしたちは日ごとに、天の父についてもっと学び、神の恵みを新たに受けるのである。そうすると、神の愛について語りたいと思うようになり、人に話せば自分の心があたためられ励まされるのである。もしわたしたちがもっとイエスのことを話し、より少なく自分のことを考えるならば、いつそ彼の臨在を仰ぐことができるのである。(キリストへの道 140, 141)

小さなグループが、聖書を研究するために夕刻や正午、あるいは早朝に集まるようにしなさい。彼らに祈りのときを持たせなさい。それは彼らが聖霊によって強められ、啓発され、そして聖別されるためである。……もしあなた方自身が受けるために戸を開くならば、大いなる祝福があなたのところにもたらされる。神の御使たちがあなたがたの集まりに出席する。あなたは命の木の葉で養われるのである。(教会への証 7 巻 195)

主の証人たちによって語られた言葉に耳を傾けるとき、主が表されてきたという事実は、イエスがまさにわたしたちの只中におられるということをわたしたちに教えている。このお方は「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」と仰せになる。ひとりの人がイエスのためにすべての証言をするのではない。そうではなく、神を愛するすべての人がこのお方の恵みと真理の尊さを証するべきである。(SDA パイブル・コメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1183)

共に祈ることは、持ちこたえる絆で心を神に結びつける。キリストを公に大胆に告白し、わたしたちの品性においてこのお方の柔和、へりくだり、そして愛を表すことは他の人々を聖潔の美で魅了するのである。(教会への証 6 巻 175)

神は共に集まり、ご自分の御名を思ふ人々を覚えておられ、そしてこのお方は彼らを非常に大災害から守ってくださるのである。彼らはこのお方の御目に宝石のようなものとなる。……神に仕えることは虚しいことではない。自分たちの生涯をこのお方の奉仕に捧げる人々には金銭で買うことのできない報いがある。(同上 4 巻 107)

真剣な祈りの信徒たちの絆

「最後に、兄弟たちよ。わたしたちのために祈ってほしい。どうか主の言葉が、あなたがたの所と同じように、ここでも早く広まり、また、あがめられるように。」(テサロニケ第二 3:1)

神の民の間では、この時代には、しばしばまごころからの熱心な祈りの時がもたれるべきである。思いはたえず祈りの態度であるべきである。家庭や教会でみ言葉を説教するために献身した人々のために真剣な祈りを捧げなさい。信徒たちに、弟子たちがキリストの昇天後に祈ったように、祈らせなさい。

真剣な祈りの信徒たちの絆が世を取り巻くべきである。すべての人にへりくだりのうちに祈らせなさい。数人の隣人が聖霊を求めて祈るために共に集まることができる。家を離れることができない人々は、子供たちを集めて、共に祈ることを学ぶために一致しなさい。彼らは救い主のみ約束を主張することができる。「ふたりまたは三人が、わたしの名によって集まっている所には、わたしもその中にいるのである」(マタイ 18:20)。(ビュー・アンド・ヘラルド 1907年1月3日)

働きにおいて神の交わりの実際的な結果ほど必要とされているものは他にない。わたしたちは祈りのための集会を持ち、主に求めて、サタンが自分の王座を据えてきた砦に真理が入るための道を開き、またサタンが欺いて滅ぼそうと努力してきた人々の道を遮るように投げかけてきた影を消散させてくださるようにと祈るべきである。わたしたちには、「義人の祈は、大いに力があり、効果のあるものである」という保証がある(ヤコブ 5:16)。(同上 1908年4月30日)

主の祈りの中に、わたしたちには完全な嘆願の模範がある。それは何と単純でありながら、何と包括的なことであろう!この祈りが子供たちに教えられるべきである。すべての人がこの中に含まれている原則を注意深く研究するようにしよう。神の民の祈りに答えて、御使たちは天の祝福を携えて遣わされる。……日毎の祈りと献身を通して、すべての人は自ら自分たちの天父と関係を持ち、それによってこのお方が彼らに豊かな祝福を授けることがおできになるようにすることができる。……

ああ、神がわたしたちの目からご自分を隠している幕を脇に引き上げて下さり、高くて聖なる場所にある神の御座に、静寂な威厳のうちではなく、千々万々の聖なる幸福な者たち、このお方のご命令を行おうと待機している者たちに取り囲まれて座しておられるご自身をあらわされたなら、多くの者はどんなにか違った行動を取るであろう!(同上 1907年1月3日)

3月28日

神の愛を反映する

「神よ、民らにあなたをほめたたえさせ、もろもろの民にあなたをほめたたえさせてください。」(詩篇 67:3)

クリスチャンとして、わたしたちは今よりもっと神を讃美すべきである。わたしたちはこのお方の愛の輝きをわたしたちの生活にもっと取り入れるべきである。信仰によってわたしたちがイエスを眺めるとき、このお方の喜びと平安が顔の表情から反射する。わたしたちは自分たちの顔がこのお方の愛の日光を反射することができるように、どれほど真剣に自分たちが神と結びつくことを求めるべきであろうか!わたしたち自身の魂が聖霊によって活気付けられるとわたしたちはキリストのご臨在の喜びを知らない他の人々を引き上げる感化力を及ぼすようになる。(SDA バイブルコメント [E・G・ホワイト・コメント] 3 巻 1148)

主はご自分の民が嘆きの一隊であることをお喜びにならない。このお方は彼らが自分たちの罪を悔い改めるように望んでおられる。それは彼らが神の息子たちの自由を享受するためである。そのとき、彼らは神への讃美で満たされ、他人への祝福となるのである。

主イエスはまた「シオンの中の悲しむ者に喜びを与え、灰にかえて冠を与え、悲しみにかえて喜びの油を与え、憂いの心にかえて、さんびの衣を与えさせるために」に油を注がれた。「こうして、彼らは義のかしの木となえられ、主がその栄光をあらわすために植えられた者となえられる」(イザヤ 61:3)。

「主」キリスト・イエスが、「その栄光をあらわすために」ああ、これがわたしたちの生涯の目的となるならば!そのときわたしたちは、自分たちの顔の表情、わたしたちの言葉、わたしたちが語る時の声の調子でさえ注意するようになる。(SDA バイブルコメント [E・G・ホワイト・コメント] 4 巻 1153, 1154)

讃美の調べは天の雰囲気である。そして天が地に触れるとき、そこには音楽と歌がある—「感謝と歌の声とがある」(イザヤ 51:3)。……家庭で美しく純潔な歌を歌うようにしよう。そうすればそこには非難の言葉が少なくなり、快活さと希望と喜びが多くなるであろう。……

わたしたちの贖い主がわたしたちを、神の栄光がひらめく無限の入り口に導いてくださるとき、わたしたちは御座の周りの天の聖歌隊から讃美と感謝の旋律を耳にする。そして天使の歌声のこだまがわたしたちの地上の家庭で呼び覚まされるとき、心は天の聖歌隊に近く引き寄せられるのである。天の交わりが地上で始まる。わたしたちはここでその主旋律を学ぶ。(ユース・インストラクター 1904 年 3 月 29 日)

讃美の歌

「主は新しい歌をわたしの口に授け、われらの神にささげるさんびの歌をわたしの口に授けられた。多くの人はこれを見て畏れ、かつ主に信頼するであろう。」(詩篇 40:3)

わたしは、もしわたしたちが皆、神を讃美し、キリストのうちに宿っているならば、御使たちは天からどのような喜びをもってわたしたちを見ることであろうと考えた。もし、本当にクリスチャンのための満ち満ちた喜びがあるのなら、わたしたちはそれを持たずに、またそれを世に表さずにいるべきであろうか。……

もう間もなく、キリストは力と大いなる栄光のうちに来られる。そしてもしわたしたちの準備ができてないとすれば、それは何と恐ろしいことであろう!すぐに準備をしよう。あなたから悪を分離し、この地上で讃美と喜びの歌を歌い始めよう。……あなたの唇が神を讃美するように調律しなさい。……天の御使たちは絶えず、神を讃美している。そしてここに、キリストがそのために天の家郷を去られ、あざけりと侮辱と死に耐えられた死すべき者たちがいる。それは、キリストがわたしたちを引き上げて天国で座することができるようにしてくださるためであった。それなのに、一つも讃美の歌を捧げないのである。

もしあなたが天国でキリストと共に座するならば、あなたは神を讃えずにはいられない。あなたの舌がこのお方を讃美し、あなたの心が神への調べを奏できるように教育し始めなさい。そして悪者がその暗闇をあなたの周りにたれこめさせようとし始めたら、神への讃美を歌いなさい。あなたの家庭で行き違いがあるとき、神の御子の比類なき魅力を歌い始めなさい。そのとき、あなたがこの旋律に触れるとき、サタンはあなたから去ると申し上げる。あなたは敵の暗黒と共に、敵を追い出すことができる。……そしてあなたは見るのが、ああ、はるかにもっと明白に、あなたの天父の愛と同情を見ることができるのである。(レビュー・アンド・ヘルド 1890年8月5日)

天の神との神聖な関係に入る人々は生来の弱さや彼らの性質の弱さのまま放っておかれることはない。……世は彼らにとって魅力を失う。なぜなら、彼らはより良い国、永遠の世界、永遠に終わることのない年月を通じて続く命を求めているからである。これが彼らの思想と会話の主題である。神のみ言葉がはなはだしく尊いものとなる。彼らは霊的な事柄を識別する。彼らは「祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現」を喜ぶ(テトス 2:13)。彼らは麗しい姿の王と、一度も墮落したことのない御使たちと、色あせることのない栄華の地を見たいと切望する。(同上 9月16日)

3月30日

世の前で神を讃美する

「だから、わたしたちはイエスによって、さんびのいけにえ、すなわち、彼の御名をたたえるくちびるの実を、たえず神にささげようではないか。」(ヘブル 13:15)

わたしたちは神への讃美と感謝を、集会においてだけでなく、家庭生活においても捧げる必要がある。このお方の嗣業の声の主のみわざを数えあげるのを聞かれるようにしよう。このお方のいつくしみ深さを語り、このお方の御力について話さない。……

わたしたちは世とその邪悪さを見ると、意気消沈し大いに落胆する。クリスチャンであると公言する世界は地を覆う闇に包まれている。地になされる憎悪すべきものに嘆息し、涙を流す。なぜこの悪がことごとく決定的な暴力行為のうちに義と真理に逆らって噴出せずにいるのであろうか。それは四人の御使たちが四方の風をとどめ、それらが地に吹き付けないようにしているからである。しかし、人間の激情は高域に達しつつあり、そして主の御霊は地から取り去られつつある。神が天の御使たちに、破壊するために束縛を脱しようとしているサタンの使たちを支配するよう命じておられなければ、希望はない。しかし神の僕たちがその額に印を押されてしまうまでは、風が止められているのである。……

道徳的な闇の中で、光が明らかにはっきりと輝き出ている。……しかしすべての魂はこの光を反射できるように、自分の顔を光に向ける必要がある。わたしたちは今よりずっと多く神を讃美する必要がある。わたしたちには喜ぶべき理由があるということを示すべきである。「あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである」(ペテロ第一 2:9)。わたしたちはこれをなすべきほど十分にしているだろうか。わたしたちは家庭においてわたしたちの贖い主に誉れと栄光を帰す愛を表しているであろうか。

この時代、いかに世に押し寄せる雲が暗くとも、その向こうには光がある。わたしたちは一歩進むごとに、強くて尊大な無知、疑い、闇、不信と直面するであろう。しかし、わたしたちの信仰はすべてを越えて上り、そして御座を取り囲む約束の虹を見なければならぬ。わたしたちは筆舌をもって神を讃え、光を反射しなければならない。(原稿 120, 1898 年)

見張りつつ祈る

「誘惑に陥らないように、目をさまして祈っていなさい。心は熱しているが、肉体が弱いのである。」(マタイ 26:41)

わたしたちはこの世界において旅人であり、寄留者である。自分たちを救うことのできる唯一のお方を拒んだ人々によって危険で包囲された道を旅している。巧妙な言い逃れと科学的な問題がわたしたちの前に広げられ、わたしたちを忠誠からそらせようと誘惑する。しかし、わたしたちは彼らに注意を払わない。すべての魂に警戒させなさい。敵はあなたの後を追っている。用心し、注意深く見張りていなさい。さもないと、ある巧妙なわながあなたを気づかないうちにわなにかけてしまう。……

ゲッセマネでの弟子たちの経験には今日の主の民のための教訓がある。……彼らは誘惑に抵抗するために見張り、祈る必要性を自覚していなかった。今日多くの者が、弟子たちのようにすぐに眠ってしまう。彼らは誘惑に陥らないようにと、見張りつつ祈っていない。わたしたちはしばしばこの終わりの時代に特別に言及し、神の民を脅かす危険を指し示している神のみ言葉の部分に注意深く読み、研究しよう。

わたしたちには鋭く、聖別された知覚力が必要である。この知覚力は互いに非難し、責めるためではなく、時のしるしを識別するために用いられるべきである。わたしたちは自分たちの心を信仰の破船にあわなないように、ことごとく勤勉な状態に保つべきである。この危険な時代に見張りつつ祈ることを怠る人々、主を求めることにおいて自分の兄弟たちと一致することを怠り、かえって教会の中で神に任命された代理人たちから遠ざかっている人々は、ますます自分たち自身のやり方で自分自身を強め、自分自身の思いの衝動に従い、そして主の訓告に注意を払うことを拒むという深刻な危険のうちにいる。……

すべての信徒は厳密に自分を吟味し、自分の弱点が何かを突き止めよう。彼にへりくだりの精神を抱き、主に恵みと知恵を、また愛によって働き、魂を清める信仰を求めて嘆願させなさい。すべての自信を捨てなさい。……自信と、見張りに欠くようになる。……神のみ前にへりくだって歩み、自分自身の知恵により頼まない人々は自分たちの危険を悟り、神の守りの保護の御力を知るのである。(レビュ・アノ・ヘラド 1910 年 7 月 7 日)

研究 14

わたしたちが信仰の一致に到達するまで



聖霊の時代

前回、わたしたちを一つにするためには、神であられるお三方がご自身をさえ与えて下さったことを見ました。エデンでその約束が与えられてから、イエス・キリストがわたしたちと「共にいます」神となるために来られる時まで、神の民は来たるべきメシヤを教えてきました。そのメシヤが誕生され、御父の栄光を表された後、天へ帰られるに先立ち、今度はご自分に代わる助け主について次のように約束されました。「わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう」（ヨハネ 14:16）。その時以来、神の民は御霊の教会となっています。

聖霊を求めて祈りなさいと命じられたエペソ教会（初期教会）は、実際、聖霊教会と言えました。ところが、その後ヨハネの黙示録を見ますと、白い馬で表されていた初期教会は、後に聖霊を求めなくなっていくに従い、赤、黒、青白と色を変えていきます。

エズラの時代には、み言葉に禁じられた未信者との雑婚によって言葉が乱れ、律法を読んでも通じなくなりましたが、今の時代は、聖霊の声がわからなくなってしまった時代です。その理由が「この世はそれを見ようとせず、知ろうともしないので、それを受けることができない」と説明されています。しかし、実際、ペンテコステの時ほど大規模な聖霊降下はありませんでした。また、人の子となられた神の御子ご自身、受胎から昇天まで聖霊によってこの地上生涯を送られました。そして、使徒パウロは、「すべて神の御霊に導かれている者は、すなわち、神の子である」と断言しています（ローマ 8:14）。これほど聖霊の約束を賜ったのに、なぜ聖霊のみ声が聞こえなくなる必要があるのでしょうか。これはちょうど神の民にあればメシヤの約束が与えられていたにもかかわらず、そのメシヤを拒んでしまい、ついに神の民でなくなった 2000 年前の歴史のようです。この聖霊の時代にも同じ歴史が繰り返されています。

1888 年の世界総会において、神の特別な憐れみにより、神の民に「キリストわれらの義」のメッセージが与えられました。その時のことについて、預言者は

次のように述べています。

「終わりの時代の危険がわたしたちの上に臨んでいる。サタンは断固として神の御霊の支配下にいることをしないすべての人の思いを支配している。…彼らはミネアポリスでこの悪魔的な働きを開始した。後になって、彼らがそのメッセージは神からのものであると証している聖霊の証明を認め、また感じたときに、ますますそれを憎んだ。なぜなら、それは自分たちに反する証であったからである。彼らは悔い改め、神に栄光を帰し、正しいことを擁護するために自分の心をへりくだらせようとしなかった。彼らは自分自身の精神のうちに進んでいき、ユダヤ人たちのように、妬み、嫉妬、邪推に満たされた。彼らは自分たちの心を神と人の敵に対して開いた。それでいながら、これらの人々はなお信任の地位をしめ、できるかぎり働きを自分たち自身のかたちに従って形成してきたのである。…」(牧師への証 79)。これが、聖霊の時代における、神の民による、聖霊に対する罪でした。

「キリストがご自分の代表者として聖霊を送るという別れの約束は、時がたっても変わりはない。み霊の恵みが豊かに地上の民に注がれないのは、神が制限しておられるからではない。もし約束の実現がみられないとすれば、それは約束が理解されていないからである。もしだれでも求めるならば、すべてのものはみ霊に満たされるのである。聖霊の必要性を重大に考えていないところには必ず、霊的なかわき、霊的な暗黒、霊的な堕落と死がある。小さな事に気を奪われているときにはいつでも、教会の成長と繁栄に必要な、しかもその後にはさまざまな祝福をもたらす神の力が、たとえ限りなく豊富に提供されていても、なお欠けているのである」(患難から栄光へ上巻 46)。

しかし、このメッセージを送られたまことの証人は「見よ、わたしは戸の外に立って、たたいている。だれでもわたしの声を聞いて戸をあけるなら、わたしはその中にはいつ彼と食を共にし、彼もまたわたしと食を共にするであろう」と言われます(黙示録 3:20)。このお方の声を聞いて、戸を開く者はだれでも、御霊に満たされます。そして、その結果、この人たちは一つになれるのです。

別の助け主を送る約束

助け主は、すなわち慰め主(Comforter)です。キリストが地上におられたときに、ご自身が神の民の助け主であられたように、キリストの昇天後は、このお方に代わって聖霊が助け主であられます。キリストの不在は、聖霊のご臨在によって慰められることが約束されました。彼らは「御霊はわたしに栄光を得させるであろう。わたしのものを受けて、それをあなたがたに知らせるからである。…よくよくあなたがたに言うておく。…あなたがたにも今は不安がある。しかし、わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう。…求めなさい、そうすれば、与えられるであろう。そして、あなたがたの喜びが満ちあふれるであろう」(ヨハネ 14:14-24)。

「わたしたちが今生存している時代は、求める者にとって、聖霊の時代となるのである。このお方の祝福を求めなさい。わたしたちがもつと献身において真剣になるべき時である」(牧師への証 511)。

聖霊が与えられる時

聖霊は、イエスのみ約束どおり、神の事柄を取り上げ、導いて下さいます。「そして、それを神は、御霊によってわたしたちに啓示して下さったのである。御霊はすべてのものをきわめ、神の深みまでもきわめるのだからである」(コリント第一 2:10)。

一致して同じことを考え、同じことを語るためには、同じ理解が必要です。

「聖霊は神の事柄を取り上げ、それらを天の宝を真心から求めている人に表して下さる。もし、わたしたちがこのお方の導きに譲るなら、このお方はあらゆる光のうちにわたしたちを導き入れて下さる」(ビュー・アソド・ハルト 1896 年 12 月 15 日)。つまり、自分が運転席を譲るときに、導いて下さるのです。

「無限の愛と慈悲によって、天から送られた聖霊は、キリストに絶対的信仰をいだいているすべてのものに、神に関することを啓示する。聖霊は、魂の救いに関する重大な真理を、人の心に強く印象づける。こうして生命の道は、ふみあやまることができないほど明らかにされるのである。わたしたちが聖書を研究するときには、神の聖霊の光がみことばを照らし、わたしたちがみことばの宝をみとめて、理解できるようになることを祈り求めなければならない」(キリストの実物教訓 89)。ここにある「すべての者」とは、この学びの目標であるエペソ 4:13 の「すべての者」と同じです。

「こうして、預言の言葉は、わたしたちにいつそう確実なものになった。あなたがたも、夜が明け、明星がのぼって、あなたがたの心の中を照すまで、この預言の言葉を暗やみに輝くともしびとして、それに目をとめているがよい」(ペテロ第一 1:19)。

キリストの語られたみ言葉は、御霊によって語られなければなりません。人が印象づけてはいけません。もし、人が印象づけたとしたら、ちょうど巧みなセールスで買い物としてしまった人のように、後になって「なぜ買ったかわからない」ことになってしまいます。

「兄弟たちよ。わたしもまた、あなたがたの所に行ったとき、神のあかしを宣べ伝えるのに、すぐれた言葉や知恵を用いなかった。…そして、わたしの言葉もわたしの宣教も、巧みな知恵の言葉によらないで、霊と力との証明によったのである」(コリント第一 2:1, 4)。

神の言葉は足しても、引いてもいけません。「すべての者は、賢明な決断を下すに十分なだけの光が与えられるのである」(各時代の争闘下巻 374, 375)。

聖霊とみ言葉の関係

御霊の約束をされたときに、キリストは次のように保証されました。「けれども真理の御霊が来る時には、あなたがたをあらゆる真理に導いてくれるであろう。それは自分から語るのではなく、その聞くとこを語り、きたるべき事をあなたがたに知らせるであろう」(ヨハネ 16:13)。

しかし、ペンテコステの後、み言葉が聞こえなくなるに従って、聖霊は消えてしまいました。その後小さい角がもはやみ言葉を隠しきれなくなり、ヒラデルヒヤの時代になって聖書研究がよみがえったときに、その聖書に注目させたのが聖霊でした。

「神は、みことばを通して、救いに必要な知識を人間にお与えになった。われわれは、聖書を、神のみこころについての権威ある、まちがいのない啓示として受けとらねばならない。聖書は品性の規準であり、教理を示すものであり、経験を吟味する (test) ものである。…

しかし、神がみことばを通してみこころを人間に啓示されたからといって、聖霊のたえざる臨在とみちびきが不要になったわけではない。それどころか、聖霊は、みことばを神のしもべたちに開き、その教えを解明して実行に移させるために、救い主によって約束されたのである。しかも、聖書に靈感を与えたのは聖霊だったのであるから、聖霊の教えがみことばの教えと相反するということはありませんのである。

聖霊は、聖書にとって代わるために与えられたのではないし、また、そのようなものとして与えられるはずもないのである。なぜなら、神のみことばは、すべての教えとすべての経験を吟味する標準であると、はっきり聖書に述べられているからである。使徒ヨハネは言っている。『すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである』(ヨハネ第一 4:1)。そしてイザヤは、『ただ律法と証とを求むべし、彼らの言うところのことばにかなわずば、しのめあらじ』と宣言している(イザヤ書 8:20 欽定訳)」(各時代の争闘(序 3, 4))。この聖句にある律法は旧約、また聖書を指し、証は新約、また証の書を指します。

イエスがご自身を拒んだユダヤ人から最終的に立ち去ろうとしておられたとき、弟子たちに世の終わりの前兆について次のように言われました。「イエスが宮から出て行こうとしておられると、…弟子たちが、ひそかにみもとにきて言った、『…世の終りには、どんな前兆がありますか』…そこでイエスは答えて言われた、『人に惑わされないように気をつけなさい…』。(マタイ 24:1-4)。世の終わりの前兆として真つ先にお答えになったのが、人に惑わされないように気をつけなさい、との警告でした。それを聞いたヨハネも警告しています。「すべての霊を信じることはしないで、それらの霊が神から出たものであるかどうか、ためしなさい。多くのにせ預言者が世に出てきているからである」(ヨハネ第一 4:1)。

では、どのようにして、真偽を見分けるのでしょうか？コリント第一 12:28 には、「第一に使徒、第二に預言者、…」とあります。真偽を判断する際に、第二の試金石は第一になります。すなわち、使徒が書き記した真理と一致しているかどうかを試金石となります。なぜなら、前述のマタイ 24 章にあるとおり、使徒たちはイエスから直接聞いたからです。これが神のお定めになった教会の秩序です。中には弟子たちより早く伝道したサマリヤの女や、イエスから個人的な聖書研究を受けたニコデモをあげて、なぜ彼らが使徒の中に入れないのかと考える人があるかもしれません。しかし、これはモーセとアロンに逆らい、「全会衆は、ことごとく聖なるものであつて、主がそのうちにおられるのに、どうしてあなたがたは、主の会衆の上に立つのですか」と迫ったコラやその仲間たちと同じように、教会の秩序を理解していない思想です。

使徒たちは、「預言者が…預言した」通りにキリストが「苦しみを受けて、三日目に死人の中からよみがえ」り、「そして、その名によって罪のゆるしを得させる悔改めが、エルサレムからはじまって、もろもろの国民に宣べ伝えられる」ことに対する「証人で」した（ルカ 24:46-48）。そして、この使徒たちこそ、イエスご自身が「みこころにかなった者たちを呼び寄せられ…そこで十二人をお立てになった」者であり、それは「彼らを自分のそばに置くためであり、さらに宣教につかわ…す…ためであつた」（マルコ 3:13-15）。

ですから、新約時代において、第二（預言者）は第一（使徒）と一致していなければなりません。さらに第三（教師）は、第二（預言者）及び第一（使徒）と合わなければなりません（コリント第一 12:28）。こうして、預言の霊（証の書）は、聖書（使徒の証）と合わないならば、受け入れることはできません。

「一部の人々が、自分たちは聖霊の光を受けたから、もはや神のみことばによってみちびかれる必要はないと公言するような誤りを犯しているために、聖霊の働きについて大きな非難が投げかけられている。こういう人々は、自分の印象に支配され、それを魂に語る神の声とみなしている。しかし彼らを支配しているのは、神の霊ではない。このように、心の印象に従つて、聖書を無視することは、混乱と欺瞞と滅亡に陥るだけである。…聖霊は、神のみことばと調和して、新約時代にその働きをつづけるのであつた」（各時代の争闘下巻（序 4,5））。

「そして、神は教会の中で、人々を立てて、第一に使徒、第二に預言者、第三に教師とし、次に力あるわざを行う者、次にいやしの賜物を持つ者、また補助者、管理者、種々の異言を語る者をおかれた」（コリント第一 12:28）。

次回、続けて神の定められた秩序と真偽の判断基準を、み言葉から確認していきます。

者たちに関してみ父の前に示させてくださるように要求なさいます。このお方は天の宇宙の前でご自分の教会が義認められ、受け入れられるまで栄誉をお受けになることがおできにならないのです。

このお方は、このお方がおられるところに、ご自分の民も一緒にいるようにしてくださいと願われます。このお方が栄光を得るには、彼らもそれをこのお方と分かち合わねばならないのです。この地上でこのお方と共に苦しむ者たちはこのお方の王国においてご自分と共に統治しなければならないのです。

これをキリストはご自分の教会のために嘆願なさいます。このお方はご自分の関心を彼らの関心と同一視し、死よりも強い愛と不変性をもって、ご自分の血によって獲得された権利と称号を主張なさいます。

この訴えに対するみ父の答えの宣言がなされます。

「神の御使いたちはことごとく、彼を拝すべきである」(ヘブル 1:6)。

喜んで天の軍勢はあがない主を拝します。数え切れないほどの天使たちの群れがこのお方の前にひれ伏し、天の宮廷に喜びの叫びが反響します。

「ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい」(黙示録 5:12)。

キリストの信者は「愛する御子によって」受け入れられるのです(エペソ 1:6)。天の軍勢の前で、み父はキリストと結ばれた契約を批准なさいました。このお方は悔い改め、従順な人を受け入れ、ご自分の御子愛するように彼らをお愛しになるのです。あがない主がおられるところには、贖われた者がいるのです。

神の御子は暗黒の君に勝利され、死と罪とを征服なさいました。

「御座にいますかと小羊とに、さんびと、ほまれと、栄光と、権力とが、世々限りなくあるように」とのべつたえる高らかな歌声が天にひびきわたるのです(黙示録 5:13)。

クリーム入りニラのお焼き

■材料

コーンクリームの缶詰め	1 缶 (410 グラム)
小麦粉	100 グラム
ニラ	1 束
オリーブオイル	少々

■作り方

1. コーンクリームをボールにあける。
2. ニラは 1.5 センチぐらいにザクザク切る。
3. ボールにニラを入れ、小麦粉 100 グラムを入れ、混ぜる。
4. 楕円形に手で整えて、フライパンにオリーブオイルを少し入れて、
5. 多少、焦げ目がつく程度に焼きます。

教会プログラム (毎週土曜日)

安息日学校 : 9:30-10:45 (公開放送)

礼拝説教 : 11:00-12:00 (公開放送)

午後の聖書研究 : 14:00-15:00

【公開放送】 <http://www.4angels.jp>



聖書通信講座

※無料聖書通信講座を用意しております。

□聖所真理



お申込先 : 〒 350-1391 埼玉県狭山郵便局私書箱 13 号「福音の宝」係
是非お申し込み下さい。

書籍

【永遠の真理】聖書と証の書のみに基づいた毎朝のよみもの。



【安息日聖書教科】は、他のコメントを一切加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。



イエスの物語

第60話

昇天(II)

神の都の門では無数の天使の群がこのお方のおいでを待っていました。キリストが門に近づかれると、このお方を護衛している天使たちが勝利の声で門にいる軍勢に呼びかけます。

「門よ、こうべをあげよ。とこしえの戸よ、あがれ。

栄光の王が入られる」

門で待っていた天使たちが尋ねます。

「栄光の王とはだれか」

彼らがこう言うのは、王がだれかを知らないからではなく、称賛と賛美の答えを聞きたいからです。

「強く勇ましい主、戦いに勇ましい主である。

門よ、こうべをあげよ。とこしの戸よ、あがれ。栄光の王が入られる」

再び、まっていた天使たちが聞きます。

「栄光の王とはだれか」

護衛の天使たちは音楽のような声で答えます。

「万軍の主、これこそ栄光の王である」(詩篇 24:7 - 10)。

その時、神の都の門が開け放たれ、天使の群れは、歓喜の音楽でわきたつ中を、門を通り過ぎます。

すべての天の軍勢は彼らの戻られた司令官をたたえるのを待っています。



彼らはこのお方がみ父の王座に就かれるのを待っています。

しかしこのお方はまだ栄光の冠と王衣をお受けになることができません。このお方は地上でご自分の選ばれた

(45 ページに続く)